

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10

鈴運メンテック株ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



## contents

- 2 2015年度各種表彰受賞者
- 3 アクションプラン
- 4 エンブレム決定 / 栃木SCより
- 5 アカデミーの取り組み / 2016シーズンに向けて
- 6 共闘共闘2016シーズンに向けて
- 7 第49回関東社会人リーグ3部決勝大会 / 第49回関東社会人サッカー大会
- 8 第22回全国クラブチーム関東大会 / 高校選抜より
- 9 各大会県予選結果 / 選手権大会栃木大会 / 第94回全国高校選手権大会県予選～全国大会に出場して
- 10 新人サッカー大会 / 高円宮杯U-18リーグ2015ユースリーグ栃木
- 11 平成28年度関係行事日程 / 全国中学校サッカー大会を根拠して
- 12 第44回全日本少年サッカー大会 / 全国中学校サッカー大会栃木大会
- 13 第38回全日本少年サッカー大会 / JA全農杯第33回全日本少年サッカー大会
- 14 指導者各位へ / 第9回関東シニア選手権大会(Over40)成績表
- 15 第9回関東シニア選手権大会結果
- 16 第16回全国シニア(60歳以上)サッカー大会関東予選会
- 26 第6回関東シニアサッカーフェスティバル(関東予選会)(Over70)
- 27 兼第3回シニアサッカー選手権大会(Over40) / JFA障害者サッカーフェスティバル栃木
- 28 障害者サッカーフェスティバル講師として参加して / 今年度の活動を振り返って
- 29 これから... / フットサル女子日本代表山下選手、2大会で世界へ
- 30 ユースフットサル選手権対抗戦栃木県女子選抜が初出場 / 女子フットサルの都道府県対抗戦栃木県女子選抜が関東3位
- 31 栃木SCレディース広瀬選手、2度目の太郎賞 / 中学校サッカー部フェスティバル大田原市で初開催
- 32 Referee College 1年間で返って / 宇都宮社会人審判委員会の活動について
- 33 サッカー審判インストラクター
- 34 感謝！2015年を終えて / 審判員としてサッカーに関わって
- 35 サッカー審判1級認定審査を終えて / 日本サッカー協会1級審判員を振り返って
- 36 ユースダイレクターの役割と活動について
- 37 2015年度賛助会員ご芳名



公益社団法人 栃木県サッカー協会  
TOCHIGI FOOTBALL ASSOCIATION

# 2016年度アクションプラン 公益社団法人栃木県サッカー協会エンブレム決定

※写真・平成27年度公益社団法人栃木県サッカー協会表彰式  
(2016年3月6日ホテルニューイタヤ)  
・エンブレムデザイン



# 2015年度公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者

## 1. 第43回太郎賞

4 種	片岡駿太	ともぞうサッカークラブ
	阿野真拓	南河内サッカースポーツ少年団
	水口嵩大	ヴェルフェたかはら那須U-12
	土屋巧海	ヴェルフェたかはら那須U-12
	大平卓海	野原グランディオスFC
	久永増音	ともぞうサッカークラブ
3 種	猪瀬結子	ブラウド栃木フットボールクラブ
	坂本昂	栃木サッカークラブ ジュニアユース
	飯島翼	FCファイターズ
2 種	伊藤祐樹	日光市立今市中学校
	小野智史	佐野日本大学高等学校
	星キョーファン	矢板中央高等学校
	明本考浩	栃木サッカークラブ ユース
女子	広瀬永里香	栃木サッカークラブ レディース

## 2. 第28回森山賞

上野哲	小山工業高等専門学校サッカー部 監督
	第44回関東高等専門学校サッカー選手権大会 準優勝
長谷川具三	ともぞうサッカークラブ 監督
	バーモントカップ第25回全日本少年フットサル大会 第3位
海老沼秀樹	佐野日本大学高等学校サッカー部 監督
	第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会関東大会 準優勝

## 3. 第33回協会長賞

### 【団体】

小山工業高等専門学校サッカー部
第44回関東高等専門学校サッカー選手権大会 準優勝
ともぞうサッカークラブ
バーモントカップ第25回全日本少年フットサル大会 第3位
佐野日本大学高等学校サッカー部
第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会関東大会 準優勝

### 【個人】

梶 克之	永年にわたり栃木県サッカー協会の顧問として、協会の発展に貢献された。
金井理	永年にわたり栃木県サッカー協会の理事として、協会の発展に貢献された。
倉持孝夫	永年にわたり栃木県社会人サッカー連盟の監事として、連盟の発展に貢献された。
小堀道正	永年にわたり栃木県サッカー協会の理事並びに塩谷地区サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
鎌倉三郎	永年にわたり宇都宮サッカー協会の会長として、協会の発展に貢献された。

## 4. 感謝状

### 【団体】

宇都宮メディア・アーツ専門学校	(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想書のデザイン並びに平面図やバースの作成に協力をいただいた。
-----------------	--

### 【個人】

石川若菜	(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想書のデザイン並びに平面図やバースの作成に協力をいただいた。
小山田汐里	(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想書のデザイン並びに平面図やバースの作成に協力をいただいた。
遠藤優	(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想書のデザイン並びに平面図やバースの作成に協力をいただいた。
仁愛莉	(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想書のデザイン並びに平面図やバースの作成に協力をいただいた。
上野貴生	栃木県サッカー協会エンブレムのデザイン作成に協力をいただいた。

## 5. 特別功労賞

安藤梢	2015FIFA 女子ワールドカップに日本代表として出場し、準優勝に貢献した。
鮫島彩	2015FIFA 女子ワールドカップに日本代表として出場し、準優勝に貢献した。
山下美幸	AFC女子フットサル選手権マレーシア2015に日本代表として出場し、準優勝に貢献した。
	第6回世界女子フットサルトーナメントグアテマラ2015に日本代表として出場した。
(故)大橋伸司	永年にわたり栃木県サッカー協会技術強化委員長や国民体育大会少年男子チームの監督として尽力され、協会の発展に貢献された。



# アクションプラン

公益社団法人

## 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人

## 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

## 公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

### 《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人</u> (県民の2%)になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13～18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	2015年度 サッカー選手登録 17,559人 フットサル登録 469人 審判員 5,078人 指導者 2,268人 計 25,374人 県民人口 1,974,064人 県民の 1.29%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として <u>5名以上</u> 、「 <u>Jリーガー</u> 」として <u>20名以上</u> 活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	2015年度 日本代表 0人 女子日本代表 3人 Jリーガー 15人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10</u> 入りする。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	2011年度 全国ランキング 第22位 ※2011以降なし
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	2015年度 J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	2015年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 3面 ・矢板市 1面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 計 12面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

TFA活動目標

2016年度の

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3)各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4)岩手国体でベスト4以上を目指す。
- (5)仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化
- (6)J3栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の確立
- (7)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (8)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (9)2022年栃木国体「総合優勝」に向けた組織体制の強化
- (10)財政の健全化<新たな収入源の確保>

## 1. 第1種委員会：社会人連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内リーグチーム強化</li> <li>・各種大会の運営及び委員会への出席率の向上</li> <li>・各委員会の業務細分化(人材育成)</li> <li>・Jチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施</li> <li>・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格</li> <li>・全国大会の誘致に向けた取り組み</li> <li>・トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み</li> <li>・登録チーム数を増やすための取り組み</li> <li>・公式記録作成者の育成</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>事業及び委員会への出席率をUP(60%へUP)</p> <p>登録チーム数をUP(2017年度登録時に2チーム増やす)</p>
	<スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内大会の活性化</li> <li>・各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員)</li> <li>・Jチーム・JFLチームとの連携による県内チームの強化</li> <li>・栃木国体に向け運営レベルアップのために全国大会開催の誘致準備</li> <li>・新規チーム数を増やすための募集・広報活動</li> <li>・公式記録作成研修会の実施</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内トーナメント大会</li> <li>・各委員会メンバーの適正化</li> <li>・J3・JFLとの連携・協力</li> </ul>

## 2. 第2種委員会：高校連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校サッカーの活性化(男女)</li> <li>・高校サッカー部員の増加(男女)</li> <li>・本県代表校の活躍(男女)</li> <li>・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>部員数 3,000人 全国大会入賞</p>
	<スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校サッカー選手権大会栃木大会</li> <li>・技術・審判の質の向上</li> <li>・男子部・女子部の連携強化</li> <li>・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化(試合結果速報等)</li> <li>・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンスへの参入</li> <li>・他種別との連携</li> </ul>

目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校サッカー選手権大会栃木大会の更なる活性化</li> <li>・技術・審判研修会及び講習会の開催</li> <li>・ユースリーグ運営面での整備</li> <li>・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンスへの参入のための協力体制づくり</li> <li>・キッズ委員会との連携</li> <li>・県総体決勝戦の男女共同開催</li> </ul>
----------------------	--

### 3. 第3種委員会：中学連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技環境の充実</li> <li>・指導者の質の向上</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① U-15リーグに90%以上のチームの参加</li> <li>② A級またはB級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上</li> </ul> <p>M4による指導者講習会への参加率75%以上</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>より良い育成環境を目指して</b></p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーグ戦文化の醸成</li> <li>・指導者養成事業及び指導者研修</li> <li>・3種委員会の組織の充実</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ)</li> <li>・公認A級、B級および公認C級コーチ養成講習会</li> <li>・各地区での指導者講習会</li> </ul>

### 4. 第4種委員会：少年連盟

2016年度の活動目標	<p>【地域】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、県内各地区予選及び県大会の選手育成を視点とした効果的な運営</p> <p>②選手育成を視点とした地域リーグの充実</p> <p>③7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>【技術】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、選手育成を視点とした技術委員会の活動時期・内容変更を検証</p> <p>②関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、審判員の技術力向上を視点とした審判委員会活動時期・内容変更を検証</p> <p>②スタンダードの確立</p> <p>【広報】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による広報委員会各事業の整備</p> <p>②正確な情報を迅速に提供する</p> <p>【フットサル】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更によるフットサル大会の効果的運営</p> <p>②フットサル研修会の積極的開催 審判・ルール・指導・普及 等</p> <p>【キッズ】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更によるキッズ事業の効果的運営</p> <p>②県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立</p> <p>③各地区での指導者養成</p> <p>【施設】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による施設委員会の効果的運営</p> <p>【女子】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による女子委員会事業の効果的運営</p> <p>【事業】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による事業委員会の効果的運営</p>
-------------	---

	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>【地域】各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】関東選抜大会ベスト4以上</p> <p>【審判】少年連盟から2級をつくる</p>
	<p>&lt;スローガン&gt;</p> <p>【技術】 <b>プレーの質を追求しよう</b></p> <p>【審判】 <b>基本に忠実に</b></p> <p>【広報】 <b>正確・迅速</b></p>
2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<p>【地域】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②各地区リーグ戦・各地区予選大会の円滑な運営</p> <p>③地区トレセンと県トレセンとのパイプ役</p> <p>④各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ</p> <p>【技術】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による技術委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②県トレセン活動の充実</p> <p>・トレーニングの質の向上</p> <p>③地区トレセン活動への指導協力</p> <p>④指導者の質の向上</p> <p>・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出</p> <p>・指導者講習会の設定と積極的参加</p> <p>【審判】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による審判委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②各地区ごとの審判研修・実技研修の充実</p> <p>③3級インストラクターの育成</p> <p>④県審判トレセンへの参加</p> <p>⑤県派遣審判への協力</p> <p>【広報】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による広報委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>【フットサル】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更によるフットサル委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②少年サッカー連盟フットサル研修会の開催</p> <p>【キッズ】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更によるキッズ委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②県・地区技術委員会との連携</p> <p>【施設】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による施設委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>【女子】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による女子委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>【事業】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による事業委員会各種事業の効果的運営</p>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<p>【地域】①地域委員会の定期的開催（12回開催）</p> <p>②地域リーグ（前期リーグ・後期リーグ）の運営</p> <p>※新入大会の結果を受けた前期リーグの編成</p> <p>・前期リーグは、関東大会栃木県大会の予選を兼ねる。</p> <p>※前期リーグの結果を受けた後期リーグの編成</p> <p>・後期リーグは、全日本大会栃木県大会の予選を兼ねる。</p> <p>③トレセンマッチデーへの協力</p> <p>④各種県大会の運営</p> <p>⑤地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する</p> <p>⑥他の委員会への協力</p> <p>⑦地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】①地区トレセン活動の活性化</p> <p>・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦</p> <p>②県大会での優秀選手選出</p> <p>③関東トレセンマッチデー・MTMトレセンマッチ・フットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂</p> <p>【審判】①県大会への審判派遣 主としてベスト16以上</p> <p>②審判研修の定期的開催</p>



	③他連盟審判員との交流 ④技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ⑤2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成 <b>【キッズ】</b> ①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会 <b>【施設】</b> ①競技施設に関する渉外 ②競技施設の整備・促進に関する活動 <b>【女子】</b> ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化を図る事業 <b>【事業】</b> ①各委員会事業運営協力
--	---

## 5. 女子委員会：女子連盟

2016年度の活動目標	・12～13へのパイプ作り（マッチデー） ・15年代の強化（トレセン強化） ・初心者へのアプローチ（グラスルーツ） ・女子審判の育成 ユース審判の育成  <数値目標> ・マッチデー5回 4種県トレ女子×U-13女子トレセン ・グラスルーツ2回 矢板地区 小山地区 ・ワンデー2回 U-12経験者対象。県央 ・3級審判の育成 審判トレセン  <スローガン> 一歩づつ
2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・4種の県トレ女子と女子13のトレセンマッチを、行う。15年代への、継続へ繋げる事を目的とする。 （4種委員会からの協力を経て実現となった） ・女子登録15のチームのトレセン参加率引き上げと強化 （栃木SCを中心に多くのチームからの参加を募り魅力あるトレセンへとしていく） ・初心者へのアプローチとしてワンデーやグラスルーツを行う。 （ビラの配布など告知に努め、指導者や指導を経験する場とし選手としても幅を広げる） ・国体への参加協力の徹底と大学生の参加確保への協力。 （28年は県リーグの優勝チームを母体に県外選手へ声掛けを行い強化を図る。） ・審判トレセン 高校交流リーグや県リーグをトレセンの場とする。 又、ユース審判の育成に向け各チームの協力を得る。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・U-13マッチデー ・グラスルーツ（2回） ・ワンデーサッカークリニック（2回） ・審判トレセン（3回）

## 6. クラブユース連盟

2016年度の活動目標	・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上  <数値目標> 関東大会でのベスト8以上  <スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）
2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

## 7. シニア委員会：シニア連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア連盟の組織化</li> <li>・未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代）</li> <li>・全国大会予選会の突破</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt; 各年代（Over40・Over50・Over60・Over70）の全国大会出場</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>各年代での関東大会を突破し全国大会出場</b></p>
2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア連盟の組織の強化</li> <li>・シニアリーグの活性（各年代40、50、60）</li> <li>・シニアチームの各年代の関東予選会を突破し全国大会出場を目指す。</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出</li> <li>・シニアサッカー選手権大会（O-40、O-50）9月</li> <li>・シニアサッカーリーグ（O-40、O-50）5月～2月</li> </ul>

## 8. 技術強化委員会

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022栃木国体+10年を視野に入れた諸事業のスタート</li> <li>・トレセン活動のさらなる充実と指導者の関わり</li> <li>・栃木TSG(テクニカルスタディグループ)の発足</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt; 関東トレセン大会各種別Aクラス入り</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>全県一致</b></p>
2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体強化策の具現化 成年男子：栃木SC及び栃木ウーヴァFCの協力 女子：国体チームの強化策の策定 小学年代、中学年代の女子選手の発掘・育成・強化 中学年代の女子対抗戦サポート U11早生まれ及びU10地区トレセンの強化（国体世代）</li> <li>・各種別の指導者の掌握（データベース化） 若い指導者の育成とネットワークの形成</li> <li>・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元</li> <li>・若手指導者の養成</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-14 海外遠征</li> </ul>

## 9. フットサル委員会：フットサル連盟

2016年度の活動目標	<p>数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまではなった。</p> <p>しかしここ数年は、フットサル事業の根幹を成す男女社会人チーム数の登録数の伸び悩みが課題として上がってきている。2015年度も2年連続で微減傾向は続き大会運営にも若干の影響が出た。社会人チームの減少は、本県のフットサル人口の減少に大きく影響してくるため、長中期の重要課題としてフットサルの普及振興をより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、元来、少人数で運営をしてきたフットサル委員会・連盟事業の役員数が足りなくなっている。負担が集中してしまっている役員も生まれてきている。新たな役員を育成し組織としての体力をつける時期に差し掛かってきている。</p>
	<p>&lt;数値目標&gt; 男女一般チーム登録を前年度の25チームから30チームを目標に増加させる</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>再興 栃木のフットサル</b></p>



2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	①男女栃木県リーグのチーム数増加と安定稼働 ②各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③関東大会レベルの公式戦で勝てるチームの育成 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベント

## 10. 審判委員会

2016年度の活動目標	①各種別・各連盟・各部との連携により審判員・並びに指導者の育成強化を図り、効率の良い指導システムを確立する。(短期) ②審判トレセン、ユース審判員の育成を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に新たな強化審判員を輩出させる。それに伴ったカリキュラムを企画する。(短、中期) ③日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自(トップレフリーセミナーⅡなど)の審判指導体制、育成システムを構築させる。(長期) ④WEB登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。(短期) ⑤KickOffシステムの有効利用。KickOffシステムの有効性を十分に引き出して利用する。(割当、レポートの報告)
	<数値目標> 審判員登録数を1級 7名、2級 60名、3級 500名、4級 5000名、フットサル 700名、女子 10名を目標に育成する。(中期、長期)
	<スローガン> <b>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM</b> (審判仲間の夢への挑戦)
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	(1種) ①2級審判員1名、3級インストラクター1名の輩出。候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。 ②中堅審判員研修会の充実。 35歳以上&3級取得後5年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る。 ③3級審判員を増やす。 他種別との連携も踏まえ、1種の大会の審判が出来る人数を増やす。 (2種) ユース審判員の研修会を実施する。 (3種) ①審判員の養成。具体的には、2級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。 ②3種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に2回行われている講習会の充実を図る。 (4種) ①各地区で、審判研修及び実技研修を実施する。 ②県大会の初日から派遣審判員を各会場に派遣する。 ③第4種所属の3級審判員に対する研修会の実施。 ④各地区の派遣審判員を対象とした研修会を開く。 ⑤県大会、関東大会等へのユース審判員の派遣を積極的に行っていく。 (女子) 県リーグ女子のみのレフリングを10試合目標とする。3級昇格者を2名増やし競う形での公式戦レフリングを決定したい。県リーグにおいては審判証の提示を

<p>2016度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<p>支持し確認実施ノート捺印と行う。</p> <p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。</li> <li>②シニアの各カテゴリー(0-40から0-70まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。</li> </ul> <p>(クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①2級審判員を1名昇格させる。</li> <li>②2級を目指す若手・中堅3級審判員を育成する。</li> <li>③3級インストラクターを1名増員する。</li> <li>④3級審判員を1名以上昇格させる。</li> <li>⑤県派遣審判員への参加者を1名以上増やす。</li> <li>⑥県審判トレセンの参加者を1名以上増やす。</li> </ul> <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①フットサル審判員の資質向上と若手・女性審判員の確保・育成する。</li> <li>②上級昇格希望者の確保し、支援する。</li> <li>③各級審判の継続的活動に対する支援する。</li> </ul> <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①12回の審判トレセンを実施する。</li> <li>②3級審判員フォローアップ研修会を実施する。</li> <li>③2級・3級審判員を強化、増員する。(関東強化4名を目標)</li> <li>④インストラクターを増員(SI2:5名、SI3:20名)する。</li> <li>⑤審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。 (審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。)</li> <li>⑥トップレフリーセミナーを開講し、上位の審判員を強化する。</li> <li>①～⑥の目標は次年度もさらに充実させて実践していく。 ・審判トレセンは、内容も含めてさらに充実させていく。例えば審判員やインストラクターに順番でプレゼンテーションを担当させていくなど。 ・例年6月末頃行っている那須スポーツパークでの関東クラブユースの大会を、審判員とインストラクター合同の研修会として位置付ける。 ・3級昇格審査の持ち方や基準を検討していく。 ・ユース審判員、女子審判員の発掘する。</li> </ul> <p>(競技部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①kickoffサイトの有効利用 関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。 同様に、県内の主大会についてもkickoffを活用する。</li> <li>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。</li> </ul>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県社会人リーグや知事杯など、社会人連盟が主催する大会を使用して実施する。</li> <li>・1種主催の研修会を開催する。</li> </ul> <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レフェリースクールを計画し、県内高校生を指導する。</li> <li>・4級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。</li> <li>・各予選会にユース審判員を割当をする。</li> <li>・全日本少年サッカー大会へ派遣する。</li> </ul> <p>(3種)</p> <p>&lt;研修会実施時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に実施。</li> <li>・2月・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、4試合で実施</li> </ul> <p>講習内容は、ルール解説、試合観戦(割り当て者もいる)、質疑応答、技術トレーニング。これらの、内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。</p> <p>&lt;講習会における目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。</li> <li>・県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する機会とする。</li> <li>・「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる機会とする。</li> </ul> <p>(4種)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各地区とも派遣審判員を、経験や実力より2つのカテゴリーに振り分けする。各地区の委員長会議の開催する。</li> <li>②上級審判員、インストラクターを育成する。</li> <li>③ユース審判員に対する活躍の場を提供していく。</li> </ol> <p>(女子)</p> <p>3級昇格者目標2名、関東派遣1名追加、県リーグインストを継続し、入る環境・育つ環境・上から目線の育成をおこなわず、はぐくむかたちで育成していく。</p> <p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判の取得・更新を通知で啓発する。</li> </ul> <p>(クラブ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県予選</li> <li>②高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会</li> <li>③下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会</li> <li>④県派遣試合(県社会人・U-18等)</li> </ol> <p>において審判員を発掘する。</p> <p>(フットサル)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県リーグ担当審判の資質向上を目的とした情報提供(随時)、競技規則確認レポートの配布(月1回)、実技等研修会の開催(3回)、若手、女性審判の確保に向けた啓発活動(U-12審判講習会の開催:3回)をする。</li> <li>②1~3級審判昇格者各1名。3級昇格審査会2回行う。</li> <li>③継続的な審判活動を支援する。(3、4級更新講習会2回。2級、3級インストラクター更新講習会1回)</li> </ol> <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各カテゴリー、各種別において研修等を充実していくとともに種別間の垣根を少しずつ取り払い、審判員の交流を図っていく。</li> <li>②年間100試合のアセスメント、インストラクター部員全員がアセスメント業務を実施する。アセスメント対応する審判員を増やす。</li> <li>③年2回のインストラクター研修会を実施し資質向上をする。</li> <li>④年2回以上の女子トレセンを実施する。</li> <li>⑤国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。</li> </ol>
--	---

## 11. キッズ委員会

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導の拡大と受益者負担への働きかけ</li> <li>・地区フェスティバルの内容の充実(年2回以上)</li> <li>・JFAフェスティバルの地区開催</li> <li>・キッズリーダー講習会の地区開催</li> <li>・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催</li> <li>・4種指導者に向けての研修会開催</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち延べ20,000人との交流</li> <li>・キッズリーダー講習会の開催(10コース、200名)</li> <li>・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催(2回以上)</li> </ul> <p>&lt;スローガン&gt; ・キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・栃木をキッズ王国に</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導 150回(実質80園・小学校30校)</li> <li>・JFAフェスティバルの内容の検討</li> <li>・各地区フェスティバルの年2回以上開催</li> <li>・フェスティバルの内容の充実(チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、みんなで遊ぶ等)</li> <li>・JFAグラスルーツフェスティバルの地区開催</li> <li>・キッズリーダー講習会の地区開催</li> <li>・他種別との交流事業の拡大</li> </ul>



目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名

- ・ 栃木SCスマイルキャラバン
- ・ 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導
- ・ 地区主催キッズサッカーフェスティバル
- ・ JFAキッズサッカーフェスティバル
- ・ JFAグラスルーツフェスティバル
- ・ キッズリーダー養成講習会

## 公益社団法人栃木県サッカー協会 エンブレム決定

記録広報委員会 村上 富士夫

エンブレムは公益社団法人栃木県サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発展に寄与することを目的に昨年10月～12月に公式エンブレムのデザイン公募を行いました。

公募には6名から6デザインの応募があり、理事会にて選定および決定をしました。作成者は栃木市の上野貴生さんで、コンセプトは栃木県の県木に制定されている「トチノキ」の葉をメインイメージし、栃木県章にも使われている「グリーン」を基調に、自然豊かな栃木をイメージしています。

今後、協会の公式エンブレムとして各連盟、委員会役員の名刺をはじめ、各種印刷物などで使用していきます。



公益社団法人 栃木県サッカー協会  
TOCHIGI FOOTBALL ASSOCIATION

## 栃木SCより

監督 横山 雄次

今シーズンより栃木SCの監督を務めさせていただきます、横山雄次です。1月19日から始動した新チームですが、宮崎キャンプや日々のトレーニングを重ねる中で順調に調整を進めております。そのなかで私自身、確かな手ごたえを感じています。皆様の期待に応えるべく、選手達も厳しいトレーニングに一生懸命取り組んでおります。まずは開幕戦のガイナレ鳥取戦を必ず勝利すべく、残りの期間で良い準備をしたいと思っています。そして、栃木SCを支えてくださっている多くの皆様の期待に応え得るべく、11月の末には必ずJ2に昇格という目標を達成するために強い覚悟で臨みたいと思っています。その為に、選手・チームスタッフが丸一となって努力し続ける一年にしたいと思っています。

チームとしては、全員のハードワークをベースに、攻守共に主導権を握るサッカーを目指して丸一となって戦っていきます。どうか引き続き温かい御支援、御声援を宜しくお願いいたします。



## アカデミーの取り組み

アカデミーセンター 只木 章広

アカデミーでは三つの哲学を基に、五つの目標実現のため努力していきます。

### 三つの哲学

#### ①アグレッシブ（積極的）

失敗を恐れない。まずやってみる。チャレンジしてみる。難しい状況を打破していく  
前進する。ゴールに向かう。常にポジティブに。  
とらえ方次第ですべてはプラスになる。

#### ②人のこころを動かす

地域の人々に感動空間を提供する。（グリーンスタジアムを満員に）

人のこころを動かすプレーとは

「走る」・・・スペースに走りこむ、流れを生み出す、最後の一秒まで走りきる。

「戦う」・・・勝利のために全力をつくす。

「一枚岩」・・・チーム一つになる。力を結集する。

#### ③栃木を愛する

栃木人（栃木を愛する人）による、栃木県独自のチームをつくる

栃木人とは・・・最後まで強い意志を貫く。粘り強さがある。一枚岩になれる。

栃木を愛する子供たちを預かり、栃木SCで活躍し、日の丸を背負う選手の育成を目指す。

### 五つの目標

#### ①栃木SCアカデミー生え抜きの選手を育てる。

栃木を愛する選手を育て、その選手がトップチームで活躍し、トップチームをJ1のステージに押し上げる。さらに、その選手が認められ日本代表に選出される。県民に応援される栃木人（栃木を愛する人）がグリーンスタジアムを満員にする。そんな選手を育てる。

#### ②サッカー界に貢献する人物を育てる。

プロ選手に直接なれなくともJFLで戦う栃木ウーヴァに貢献できる、関東リーグヴェルフェたかはら那須に貢献できる、各大学に貢献できるサッカー選手を育成する。

また、プレーヤーとしてだけでなく、サッカー関係の仕事に従事する人や指導者となって、愛する栃木県のために、サッカー界のために貢献する人間を育てる。

#### ③栃木県のサッカー仲間と共に高め合う。

Jリーグから学んだことを提供し、それを互いに共有する。サッカー教室を通じて触れ合い、対戦を通じて競争する。お互いに高めあう。その先に

栃木県が一枚岩となり2022栃木国体のサッカー競技総合優勝を勝ち取る。

#### ④サッカーを普及させる。

子供たちにサッカーの楽しさを伝える。子供たちに元気いっぱい体を動かす空間を提供する。お母さんもお父さんもプレーする楽しさを体験してもらおう。

シニアの先輩方にも活動の場を提供する。サッカーを通じて仲間を増やす、一緒に汗を流す楽しい空間を創る。

⑤これらの活動をするために拠点となるグラウンドを所有したい。みんなが集える場所さえできれば、県内各クラブのジュニアチーム、ジュニアユース、レディースチーム、高校生チームとの交流会、強化会、公式試合をより多く行うことができる。また、幼稚園生からシニア層まで多くのサッカー愛好者との交流を持つ機会が創れ、世代を超えた本当のサッカー文化が醸成される。

以上、皆様の力をお借りして全力で取り組みます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2016シーズンに向けて

栃木ウーヴァフットボールクラブ  
広報 三森 綾音

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめとする皆さまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、第18回日本フットボールリーグは3月6日（日）に開幕し、11月13日（日）まで行われます。ホームゲームは3月13日（日）の栃木市総合運動公園陸上競技場で開幕し、15試合を栃木市、足利市、小山市で戦います。多くの方に、会場で栃木ウーヴァFCの戦いをご覧いただきたいと思います。

JFL 7年目となる今シーズンは、下位争いから脱出すべく、クラブ初となる外部からのプロ監督として堺陽二氏を招聘し、昨シーズン監督を務めた前田和也がヘッドコーチに就任しました。まず取り組まなければならない事は、昨シーズンの課題としても残った得点力不足の改善と守備の構築を徹底し、負け慣れたチームの意識を改革することです。最後まで全力を出し尽くして、勝ち切れる「闘う集団」へと変貌していきます。そのためには、1プレー、1cm、1秒・・・「勝負に宿る細部」にまでこだわりを突き詰め、全員が進むべき方向を向き、チームに忠誠心・犠牲心を誓い闘い抜いていきます。2016シーズンのスローガンに『鉄の



結束』を掲げ、「鉄」の「高温になると溶け、冷めると固まる」という特性のように、チームとしても熱く燃え、それぞれが調和、融合し、凝固な組織を作り上げていきたいと思ひます。

監督、コーチ、スタッフ、33人の選手たち、そして栃木ウーヴァFCに関わるすべての人たちの総力を結集して、「今年の栃木ウーヴァFCは手強い」ということを、全国に広めていきます。

私たちを支えてくださる地域の人々への恩返しとして、街頭イベントへの参加や、子どもたちへのサッカー教室、幼稚園や小学校を訪問する「夢の教室」や「キャラバン」など、地域貢献活動の充実を図ります。地域の人たちとの絆を強くし、地域に愛される魅力あるクラブチームを目指して、より一層邁進していきます。

今後とも、ご支援ご声援のほど、よろしくお願い致します。



## 共闘共感 2016シーズンに向けて

ヴェルフェたかはら那須  
山本 奈

日頃より栃木県サッカー協会、ヴェルフェのホームタウンである矢板市のみなさまをはじめ多くのご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

チームは昨シーズン関東サッカーリーグ1部において5勝5分8敗という成績でリーグ順位を6位で終えました。開幕前に立てた目標には及ばず不本意な結果となってしまいましたが、1部残留をすることができ、チームは今季で関東サッカーリーグ在籍通算16年目となります。今年こそ念願のJFL昇格を果たせるよう、昨年に引き続き2シーズン目となる堀田監督体制の下ただいまチームは2016関

東サッカーリーグ開幕に向けて準備をしています。

2016シーズンのチームスローガンは「共闘共感～全力でサッカーを楽しむ～」とし、そこには「ゲームで闘ってるのは選手だけではない。ヴェルフェを愛してくれる方々も闘ってる。共に喜び、共に悔しがり、共に笑い、共に苦しむ。全てを共に味わえるチームでありたい。」という想いを込めています。

昨シーズンにおいては全国社会人サッカー選手権大会出場、小学生チームであるU-12の全日本少年サッカー大会決勝大会出場に際して多額の寄付を賜り、改めて多くのみなさまのご支援ご協力があるからこそ活動させていただけているということを強く実感いたしました。日頃より多くのみなさまからいただいているご支援ご協力に対してクラブがお返しできることは、試合において良い結果、成績を残すことはもちろんのこと、私たちにできることで地域に貢献していくことだと考えます。そこで今シーズンよりホームゲーム後のサッカー教室、地域イベントへの参加などにこれまで以上に力を入れ、地域に対して恩返しをしていきたいと考えています。そして、このような活動を通して真に地域に根差したクラブとなり、地域のみなさまに認めていただき共闘共感の輪を広げていければと思います。また、このような活動を通して、地域活性化、まちづくりの一端を担うことができるよう努めていきたいと思ひます。

まだまだ発展途上のクラブではありますが、地域のサッカークラブである私たちにできることを精一杯行い、地域に還元していきたいと思ひます。関東サッカーリーグにおいても栃木県の代表であるという自覚と責任を持って闘っていきますので栃木県のサッカー関係者のみなさまにも少しでも試合結果やクラブの活動にご注目いただき、ご声援をいただけたら幸いです。2016年もヴェルフェたかはら那須を何卒よろしくお願い致します。





# 第49回栃木県社会人サッカーリーグ 3部決勝大会組合せ

# 第49回関東社会人サッカー大会組合せ

開始時間	会場
第一試合 11:00	①総合運動公園Aコート
第二試合 13:00	②総合運動公園Bコート
※1 第一試合 10:00	③総合運動公園Cコート
※2 第二試合 12:00	④都賀スポーツ公園運動場
会場利用の都合により試合時間を1時間早めます。	⑤石井緑地No 1、No 2 (12/20予備グラウンド)

会場	A：ゼットエー・オリプリスタジアム B：姉崎公園サッカー場 C：VONDSグリーンパーク D：帝京平成大学サッカーグラウンド
----	---

(宇河・上都賀①) amnac 1	11/29 ① 10:00	10	0
(下都賀・両毛) FC佐野 2	12/6 ② 11:00	2	5
(宇河・上都賀②) FC Re:start 3	11/29 ① 13:00	6	2
(下都賀・両毛①) 小山高専 4			
(北那須①) ACHIEVE 5	11/29 ③ 11:00	2	0
(下都賀・両毛③) FCソレイユ 6	12/6 ② 13:00	2P4	2K5
(宇河・上都賀④) 栃木県庁蹴球会 7	11/29 ③ 13:00	1	0
(塩谷・南那須①) FCBOASORTE 8			
(芳賀地区①) N. CLUB 9	11/29 ④ 10:00 ※1	3	0
(北那須②) Erste CREW 10	12/6 ① 11:00	1P5	1K4
(宇河・上都賀③) FC SAKURA 77 11	11/29 ④ 12:00 ※2	1	2
(下都賀両毛④) FCBORBOLETA 12			

FC Re:start.

栃木県庁蹴球会

N. CLUB

11月14日	11月15日	11月28日	11月29日
1 千葉教員サッカークラブ 千葉県1位	2 千葉県1位	11:00A (PK3-4) 【1】	4
2 LB-BRB TOKYO 東京都2位	2 東京都2位	11:00B (PK3-5) 【2】	1
3 フットボールクラブ真岡21 栃木県1位	2 栃木県1位	11:00B (PK3-5) 【2】	1
4 サンパ南サッカークラブ 埼玉県4位	2 埼玉県4位	11:00B (PK3-5) 【2】	1
5 ザスパ草津チャレンジーズ 群馬県1位	3 群馬県1位	11:00C 【3】	5
6 クマガヤサッカースポーツクラブ 埼玉県2位	2 埼玉県2位	11:00A 【10】	0
7 VERDRERO港北 神奈川県1位	3 神奈川県1位	11:00D 【4】	1
8 Criacao 東京都3位	1 東京都3位	11:00A 【15】	1
9 鹿島さわやかFC 茨城県1位	4 茨城県1位	11:00D 【5】	1
10 アヴェントゥーラ川口 埼玉県3位	0 埼玉県3位	13:30A 【11】	3
11 東京海上日動火災サッカー部 東京都1位	3 東京都1位	11:00C (PK5-3) 【6】	2
12 宇都宮フットボールクラブ 栃木県2位	3 栃木県2位	13:30B 【14】	1
13 山梨学院大学ベガサス 山梨県1位	2 山梨県1位	11:00B 【7】	1
14 エスペランサSC 神奈川県2位	3 神奈川県2位	13:30B 【12】	4
15 ACアルマレッザ飯能 埼玉県1位	3 埼玉県1位	11:00A 【8】	0
16 市川サッカークラブ 千葉県(開催地)	2 千葉県(開催地)		

【 】はマッチナンバー

# 第22回全国クラブチーム サッカー選手権大会関東大会

9月19日 9月20日 9月21日  
(土曜日) (日曜日) (月曜日)

1	クラブテアトロ (神奈川県代表)	陸上競技場 【1】 11:00	4	3 1	0 0	1
2	全神栖サッカークラブ (茨城県代表)		0			
3	USC nanaho (山梨県代表)	球技場 【2】 11:00	1	0 1	2 2	2
4	船橋フットボールクラブ (千葉県代表)		4			
5	群馬教員サッカークラブ (群馬県代表)	球技場 【3】 13:00	1	1 0	0 0	4
6	九曜フットボールクラブ (東京都代表)		0			
7	I.A.C Raseele (栃木県代表)	陸上競技場 【4】 13:00	0	0 0	1 0	3
8	FC.BOWTH (埼玉県代表)		1			
		球技場 【5】 11:00		0 1 0 0	0 1 1 0	2
		球技場 【6】 13:00		3 1	3 0	0
		球技場 【7】 11:00		1 1	0 0	

船橋フットボールクラブ

試合会場: 神奈川県立体育センター 陸上競技場  
: 神奈川県立体育センター 球技場

## 1. 高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長  
小田林 宏至



現在、高校連盟は63校が県高体連サッカー専門部に所属し活動しています。

10月12日から11月7日にかけて開催された第94回全国高校サッカー選手権大会栃木大会2次予選は、インターハイ予選の上位8校と8月に実施した1次予選を勝ち抜いた16校の計24校が熱戦を繰り広げました。

準決勝第1試合は、準々決勝においてインターハイ予選で優勝した第1シードの佐野日大高校を破った真岡高校と小山南高校が対戦し、真岡高校が1対0で勝利しました。続く第2試合は、ノーシードから勝ち上がった宇都宮工業高校と矢板中央高校が対戦し、矢板中央高校が5対0で勝利しました。

決勝戦は前半に矢板中央高校が3点を挙げ、粘る真岡高校を合計3対0で下し、優勝し3年連続7回目の本大会出場を決めました。

矢板中央高校は本大会において、1回戦大分代表の大分高校に2対1と逆転勝ち、2回戦徳島代表鳴戸高校にも3対0で勝利しました。

続く3回戦では、富山代表の富山第一高校に1対2と惜しくも逆転負けを喫しましたが、最後まであきらめない戦いを見せてくれました。

また、矢板中央高校はU-18ユースリーグ1部においても全勝で優勝するという圧倒的強さを見せました。

関東プリンス参入戦では、東京都代表の関東第一高校に2対1で逆転勝ちしましたが、参入決定戦で神奈川県代横浜FCユースに2対3と惜敗し、残念ながら惜しくも昇格を逃しました。

また、年間をとおして実施しているU-18リーグにおいては、年々組織及び運営が整備されてきています。

複数チームの参加も当たり前となり、試合数が確保され、多くの選手たちが公式戦を経験することができるようになりました。

しかし、昨年もこの場に記載しましたが、同時に試合日程の過密化や選手および顧問の先生方への負担の増加、各学校の行事や試験との関係等課題も多いのが現状です。次年度以降は一つでも課題を解決できるよう、努力していこうと考えています。

現在のところ本年度の行事は現在行われている新人大会のみとなりました。

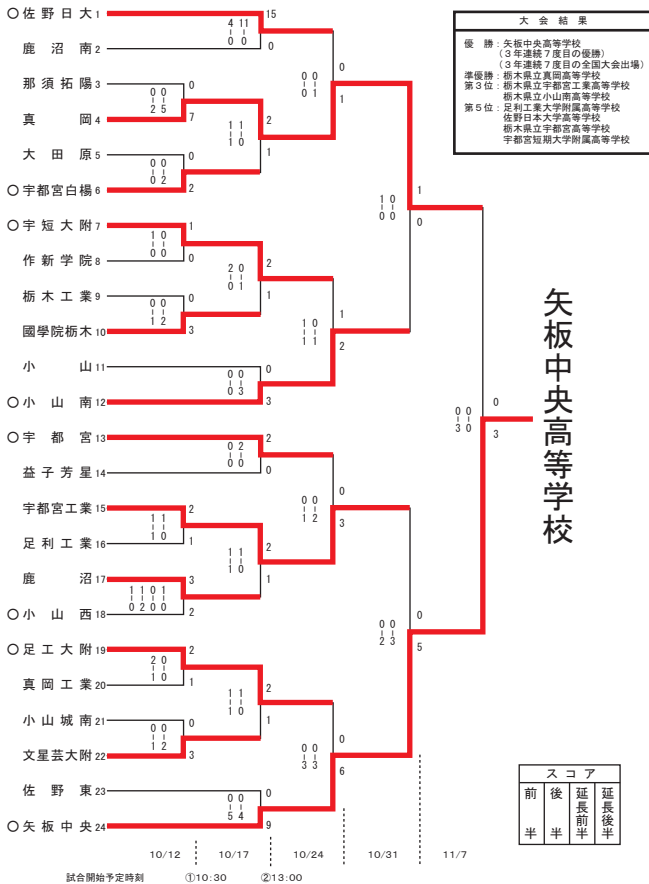
次年度に向け、よりよいサッカー環境を整えるべく、取り組んでいきたいと思っています。

## 2. 各大会県予選結果（男子）

### ①選手権大会栃木大会

矢板中央高校（3年連続7度目の優勝）

平成27年10月12・17・24・31日 11月7日



## 第94回全国高校サッカー選手権大会 県予選～全国大会に出場して

矢板中央高校サッカー部

監督 高橋健二



第94回全国高校サッカー選手権における大会優秀選手  
星キョーワン選手(3年)



矢板中央高校サッカー部はおかげさまで3年連続7回目の選手権出場を果たすことができ、連続出場の3年生にとって3か年の集大成として大会に臨みました。今年のチームは1年次から全国大会経験者が数名おり、経験を活かし試合を優位に進めることが期待できる状況でした。また、過去2年間の初戦試合は2戦ともに先制を許すという厳しい試合展開を余儀なくされたために、経験と反省点から守備意識を高く持ち、落ち着いた試合展開に運べるよう指示を出しました。しかし、初戦で対戦した大分高校は開始から攻撃的なパスサッカーで県内ではあまり対戦したことない特徴的なチームでした。そのため、ゲームは一進一退の攻防となり、前半終了間際で一瞬の隙を狙われて先制を許してしまい、過去の痛い記憶がよみがえってきてしまったのです。しかし、「今までのチームとは違う」と選手を励まし、選手たちは最後まで諦めることなくボールを追い続け、厳しいハードワークを貫き、終了1分前に逆転ゴールをすることが出来ました。2回戦ではその勢いに乗ったゲーム展開をし、3対0で勝利。3回戦では、一昨年優勝の富山第一高校と対戦しまし





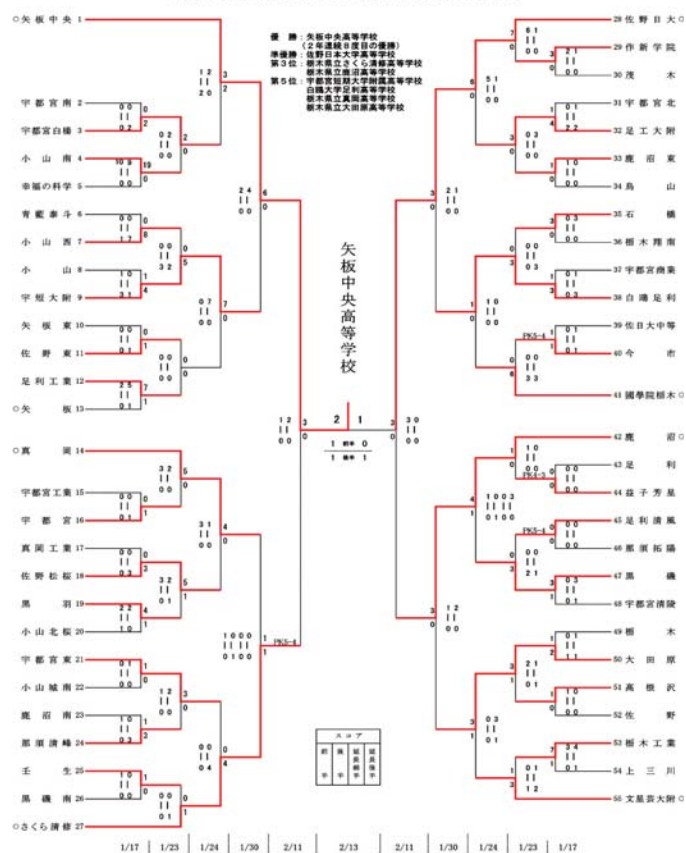
たが、やはり優勝経験の壁は厚く、1対2で敗戦してしまいました。選手たちは「栃木県代表」としての使命感を抱え、諦めず終了ホイッスルまで戦ったひたむきな姿は決して忘れることが出来ません。また、敗戦後も多くの方々からの励ましのお言葉を多数いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ご声援、誠にありがとうございました。今後も、日々努力を重ね、ライバルであり仲間である県内サッカー部のチームとともに栃木県高校サッカーを発展させていきたいと思っています。

## ②新人サッカー大会

### 矢板中央高校（2年ぶり連続8度目の優勝）

平成27年度栃木県高等学校サッカー新人大会 結果

平成28年1月17・23・24・30・31日 2月6日（予備日：2月11・13・14日）



## 「2部グループA」

順位	チーム	勝点	来季
1位	真岡高校B	51	1部降格
2位	佐野日大高校B	41	
3位	小山西高校	32	
4位	栃木SC-B	30	
5位	鹿沼高校	28	
6位	鹿沼東高校	27	3部降格
7位	佐野東高校	26	
8位	足利高校	9	
9位	石橋高校	8	3部降格
10位	矢板東高	7	3部降格

## 「2部グループB」

順位	チーム	勝点	来季
1位	足利工業大学付属高校	45	1部降格
2位	矢板中央高校B	39	1部降格
3位	國學院栃木高校	36	
4位	白鷲足利高	35	
5位	宇都宮短期大学付属高校B	32	3部降格
6位	栃木高校	22	
7位	宇都宮東高校	15	
8位	大田原高校	14	3部降格
9位	宇都宮白楊高校B	14	3部降格
10位	足利工業高校	8	3部降格

※勝点と同じ場合の順位決定は、得失点差によるもの

## 「3部グループa」

順位	チーム	勝点	来季
1位	黒磯高校	37	2部昇格
2位	真岡高校C	35	2部昇格
3位	矢板中央高校C	31	
4位	宇都宮白楊高校C	29	
5位	さくら清修高校B	25	2部昇格
6位	宇都宮高校B	24	
7位	矢板高校	24	
8位	那須拓陽高校	22	2部昇格
9位	烏山高校	20	
10位	高根沢高校	20	
11位	宇都宮工業高校B	18	2部昇格
12位	宇都宮短期大学附属高校D	18	
13位	那須清峰高校	14	
14位	茂木高校	13	2部昇格
15位	黒磯南高校	9	
16位	黒羽高校	5	

※勝点と同じ場合の順位決定は、得失点差によるもの

## ③高円宮杯U-18サッカーリーグ2015

ユースリーグ栃木

順位	チーム	勝点	来季
1位	矢板中央高校	54	2部降格
2位	栃木SCユース	43	
3位	真岡高校	40	
4位	佐野日大高校	28	2部降格
5位	宇都宮短期大学付属高校	24	
6位	さくら清修高校	22	
7位	宇都宮白楊高校	16	2部降格
8位	小山西高校	13	
9位	益子芳星高校	13	
10位	宇都宮高校	10	2部降格

※勝点と同じ場合の順位決定は、得失点差によるもの

「3部グループb」

順位	チーム	勝点	来季
1位	宇都宮工業高校	35	2部昇格
2位	國學院栃木高校B	34	2部昇格
3位	文星芸術大学附属高校	33	
4位	佐野日大高校D	31	
5位	宇都宮短期大学附属高校C	29	
6位	矢板中央高校D	29	
7位	真岡工業高校	27	
8位	宇都宮清陵高校	27	
9位	作新学院高校	20	
10位	今市工業高校	19	
11位	宇都宮北高校	17	
12位	宇都宮南高校	13	
13位	栃木工業高校B	12	
14位	今市高校	8	
15位	黒磯高校B	7	
16位	上三川高校	3	

※勝点と同じ場合の順位決定は、得失点差によるもの

「3部グループc」

順位	チーム	勝点	来季
1位	佐野日大高校C	39	
2位	小山南高校B	36	
3位	栃木工業高校	34	2部昇格
4位	青藍泰斗高校	34	2部昇格
5位	小山高校	34	
6位	小山西高校B	30	
7位	白鷗足利高校B	28	
8位	佐野松桜高校	27	
9位	小山城南高校	24	
10位	足利清風高校	23	
11位	壬生高校	23	
12位	佐野高校	14	
13位	栃木翔南高校	13	
14位	栃木高校B	12	
15位	栃木農業高校	7	
16位	佐野日大中等教育高校	6	
17位	小山北桜高校	3	

※勝点と同じ場合の順位決定は、得失点差によるもの

「1部昇格決定戦」

高円宮杯U-18サッカーリーグ2015ユースリーグ栃木  
昇格決定戦 結果

平成27年12月26日(土) キックオフ10:30

試合会場 那須塩原市青木サッカー場A

一部昇格

0	1
0-0	
0-0	
0-0	
0-1	
2部A5位 鹿沼	2部B3位 國學院栃木

### 3. 平成28年度栃木県サッカー 関係行事日程(予定)

※変更がありますので、ご了承ください

- (1) 4月9日～  
高円宮杯U-18サッカーリーグ  
2016ユースリーグ栃木
- (2) 4月23日～  
関東大会県予選会
- (3) 5月28日～  
インターハイ県予選会
- (4) 8月5日～  
選手権大会栃木大会一次予選会
- (5) 10月15日～  
選手権大会栃木大会
- (6) 11月中旬～  
地区新人サッカー大会  
※地区ごとに開催日程が異なります
- (7) 1月15日～  
県新人サッカー大会

### 全国中学校サッカー大会を視察して

第3種委員長 菅谷 昌広

今年度の全国中学校サッカー大会は8月19日(水)から22日(土)にかけて、北海道帯広市で開催された。本県からは姿川中学校が関東地区の予選を突破し、3年ぶりに全国大会への出場権を獲得した。

会場は、毎年日本クラブユースサッカー選手権(U-15)が行われる帯広の森球技場と帯広市グリーンパークが使用された。グリーンパークは、4試合が同時に展開できる広大な敷地であった。1日1試合を5日間連続で行うというレギュレーションではあるが、真夏のこの時期を考えると、湿度の低いさわやかな北海道で開催された今回の大会は、選手・指導者にとって比較的恵まれた条件であった。

#### 1. 大会全般を振り返って

各地域の予選を勝ち抜いた32チームの内訳は、公立の中学校が20チーム、私立の中学校が11チーム、朝鮮中級学校が1チームであった。ここ数年、私立の中学校が強化を図り、出場チーム数を増やしている傾向が顕著である。

システムについては、多くのチームが4-2-3-1または4-4-2を採用していた。当然のことではあるが、各チームには高さ・強さのあるセンターバック、ゲームを組み立てる中盤のリーダー、スピードのあるサイドアタッカー、決定力のあるストライカーを備えていた。

戦い方の傾向としては、各チームとも守備の組織をきちんと構築したうえで、奪ったボールを素早く

動かしながら前線の個の力を生かして攻撃しようとする意図が見られた。その中でも静岡学園中（静岡）、ルーテル学院中（熊本）などは、体格的には恵まれていないものの、高い個人技をベースに組織的に相手を崩そうとする戦い方をしていた。

ベスト8では7チーム、ベスト4ではすべてのチームが私立中学校となった。決勝では前評判の高かった青森山田中（青森）が、レベルの高い九州地区大会を制した日章学園中（宮崎）に苦しみられながらも、後半に地力を発揮し見事に2連覇を果たした。日本代表候補の2人のFWを擁する青森山田中は、高い個人技に加えて攻守の切り替えの速さを生かし、決勝までの5試合で31得点を挙げる高い攻撃力が光った。また、交代選手の質が高く、選手層の厚さも特筆すべきものがある。準優勝の日章学園中も決勝戦では中心選手の負傷により力を出し切れなかったが、多くの選手が豊富な運動量で攻撃に関わり続けるとともに守備においても全員がハードワークすることができる好チームであった。

また、今大会から自由な交代が廃止され再交代が認められなくなったため、昨年度までのように特定の選手同士を繰り返して交代する場面はなくなった。タフな選手を育てていかなければならないという育成・強化の面からの視点と選手の健康面に配慮する必要があるという安全面からの視点があり、交代の問題についてはさらに議論の余地があるのではない。

## 2. 姿川中の戦い

栃木県総体を制し、関東大会を第5位で突破した姿川中は攻守にバランスのとれたチームであった。守備では、CB③安良岡とボランチ⑥梁川を中心にDFラインとMF陣が連携を図りながら高い位置でボールを奪おうとする意図が見られた。1回戦の粉河中（和歌山）戦では相手アタッカーにドリブル突破を許す場面もあったが、安定した守備を見せて相手チームを完封した。攻撃では、中盤でMF⑦斉藤を中心にボールを動かす中で、今大会の優秀選手にも選出されたFW⑩田澤がうまくボールを引き出したり右サイドのMF⑧野田の突破力を生かしたりする形で粉河中から4点を奪った。

2回戦の青森山田中戦では前半途中まではほぼ互角に戦い、決定的なチャンスを作って相手を慌てさせる場面もあった。しかし、飲水タイム直前と前半終了間際の失点が響き、最終的には0-7と敗れた。青森山田中とはフィジカル面も含めて球際の強さや激しさ、プレッシャーのかかった場面での技術、パスの質（精度・タイミング・キックの種類の使い分け）、攻守の切り替えの速さなどで差が感じられた。特に、姿川中の決定的なチャンスの際には青森山田中の数人の選手が身体を張ってシュートブロッ

クに入るなど、勝負への強い執念には見習うべきものがあった。

## 3. 今後に向けて

全国の上位を狙う私立中学校とは個の力や選手層の厚さという点で及ばない面はあるが、姿川中の特徴であるボールを動かしながらチームとして意図的にゴールを目指したり、全員がハードワークしてボールを追いかけたりする部分は全国の舞台でも通用していた。栃木県内の他のチームも、地道ではあるが基本的な技術・戦術を大切にしながら組織で戦えるチーム作りを目指していくことが大切であろう。それと同時に、荒削りだがスピードがある・身長が高い・身体的には恵まれないが技術が高いなどの特徴ある選手を、目先の勝利ばかりにこだわらずにじっくりと育てていくことも必要だと思われる。

また、姿川中は以前から県U-15上位リーグへの参戦を続けてきているとともに、中体連のチームとして唯一高円宮杯県予選に参加するなど、選手にとって良い経験を積み重ねてきている。このようなチームとしての高い意識が、今回のような活躍につながってたはずである。

中体連としても全国・関東大会の舞台で活躍できるチームを輩出するために、指導者の質を向上させることにより日常のトレーニング環境を改善したり、リーグ戦の活性化を進めることによりゲーム環境を整えたりしなければならない。クラブチームと互いに切磋琢磨しながら様々な角度から選手の育成・強化を図り、栃木県の3種のレベルアップにつなげていきたい。今回のような全国・関東大会の視察を通して見えてきた本県の課題を指導者が共有し、それらを協力して克服していこうとする体制作りも必要になってくると感じた。

## 第4種委員会

# 第39回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

11月3日から4日間にわたり、全国大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。今年度は地域リーグ戦が予選となり勝ち上がった64チームが大会に参加しました。

最終日の準決勝まで勝ち進んだのは、FC氏家（塩谷南那須）ヴェルフェU-12（塩谷南那須）御厨FC（両毛）野原グランディオスFC（北那須）の4チームでした。決勝戦はヴェルフェU-12対野原グランディオスFCとなり、4点を叩き込んだヴェルフェU-12が初優勝し、全国大会の切符を手に入れました。





＜優勝したヴェルフェU-12＞



＜準優勝の野原グランディオスFC＞



＜第三位 フットボールクラブ氏家＞



＜第三位 御厨フットボールクラブ＞

## 第44回栃木県少年サッカー選手権大会



11月22日から4日間にわたり、第44回大会が行われました。

ともぞうSC：久永瑠音さんによる選手宣誓で大会がスタートしました。

195チームが参加した今大会も多くの名勝負が生まれました。決勝はヴェルフェ・ヴェール（塩谷南那須）対TEAMリフレSC（宇河）となりました。両者一步も譲らぬ好ゲームとなりましたが、3点を奪ったヴェルフェ・ヴェールが初優勝しました。準優勝はTEAMリフレSC、第3位にはJFCファイターズ（芳賀）、栃木ウーヴァフットボールクラブ・セレソン（下都賀）が輝きました。



＜優勝したヴェルフェ・ヴェール＞



＜準優勝のTEAMリフレSC＞



＜第3位のJFCファイターズ＞



＜第3位の栃木ウーヴァフットボールクラブ・セレソン＞



また、12月5日、6日にはジュニアの部も開催されました。4年生以下のフレッシュな大会です。結果は、御厨FC（両毛）、ともぞうSCジュニア（宇河）がブロック優勝しました。準優勝は栃木SCジュニア（宇河）、プラウド栃木FCU10（北那須）でした。



＜優勝した御厨FC＞



＜準優勝した栃木SCジュニア＞



＜優勝したともぞうSC＞



＜準優勝のプラウド栃木FCU10＞

## 第39回全日本少年サッカー大会

12月26日から鹿児島県にて開催されました。本県代表のヴェルフェたかはら那須U-12は、予選リーグでピナクル倉敷FC（岡山）、スポルティフ秋田、SSクリエイト（大阪）の3チームと対戦しました。ピナクル倉敷を3－2、スポルティフ秋田を1－0で退けましたが、SSクリエイトに3－5で敗れ、惜しくも決勝トーナメントに進出することはできませんでした。

## JA全農杯 第33回栃木県少年サッカー新人大会

2月7日から3日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった64チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

決勝日に勝ち進んだのは、ともぞうSC（宇河）、FC Boa Sorte（塩谷南那須）FCアネーロ宇都宮（宇河）、リフレSC（宇河）の4チームでした。決勝は、ともぞうSC対リフレSCの対決となりました。レベルの高い好ゲームとなりましたが、ともぞうSCが1－0で勝利し、優勝しました。



＜優勝のともぞうSC＞



＜準優勝のリフレSC＞



＜第3位のFCアネーロ宇都宮＞



＜第3位のFC Boa Sorte＞



## ＜指導者各位へ＞

プレーヤーズファーストとは、サッカーに係わるすべての人はピッチに立ってプレーしている選手を中心に考えよう、という意味です。

これを少年連盟に置き換えて考えますと少年サッカーに係わる、役員・審判・チーム代表・監督・コーチ・保護者は、選手を中心に考えよう、となります。

本年度は規律委員会に始まり規律委員会で終わりました。指導者の心ない指導や暴言により、

- ① 不登校になってしまった選手
- ② チームを辞めた選手
- ③ サッカーをやめた選手
- ④ 家族全員で悩み日本協会暴言暴力相談窓口  
連絡して解決の糸口を探す家庭

等々の事例が報告されています。

楽しいはずのサッカーが苦しみになってしまいました。本年度は一年間に12件報告がありました。一つの問題を解決するのに2ヶ月はかかります。

「健全育成」はどこにいつてしまったか、指導者は、心身ともに健全な選手を育成してこそ良い指導者ではないかと考えます。こんな事で栃木県のサッカーの未来は大丈夫かと憂えています。

他人事でなく、すべての指導者が自分のこととしてとらえましょう。楽しく明るく有意義な選手育成の環境を整えるにはどうしたらいいかを真剣に考え、それを実行していきましょう。

**暴言暴力のない、素晴らしい『栃木県のサッカー』をいっしょにめざしていきましょう。**

(文責 高瀬利明)

## 第9回関東シニアサッカー選手権大会（Over40）・成績表

【A組】

会場：ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場

※25分—10分—25分

	山梨県	千葉県	茨城県	群馬県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
山梨県 山梨シニア		①-B 2-1	③-A 0-3	⑥-A 0-3	3	1	0	2	2	7	-5	3
千葉県 1981	①-B 1-2		⑥-B 2-4	③-B 1-1	1	0	1	2	4	7	-3	4
茨城県 ドリーム水戸シニアFC	③-A 3-0	⑥-B 4-2		①-A 2-2	7	2	1	0	9	4	5	1
群馬県 大泉クワレンタ	⑥-A 3-0	③-B 1-1	①-A 2-2		5	1	2	0	6	3	3	2



【B組】

会場：ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場

※25分—10分—25分

	神奈川県	東京都	埼玉県	栃木県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
神奈川県 BonDeBola藤沢		②-B 2-1	④-A 0-0	⑤-A 2-0	7	2	1	0	4	1	3	1
東京都 Tドリームス	②-B 1-2		⑤-B 1-2	④-B 1-0	3	1	0	2	3	4	-1	3
埼玉県 セレソン所沢シニア	④-A 2-1	⑤-B 0-0		②-A 2-2	5	1	2	0	4	3	1	2
栃木県 矢板クラブ	⑤-A 0-2	④-B 0-1	②-A 2-2		1	0	1	2	2	5	-3	4

※ 勝点 勝ち:3点 引き分け:1点 負け:0点(同率順位の時:得失点差・総得点・当該チーム試合結果により)

【優勝・3位・順位決定戦】 開始時間：13時00分

※順位により、表彰を行います

会場： 決勝：Aグラウンド 3位決定戦：Bグラウンド

決勝		ドリーム水戸シニアFC	V S	BonDeBola藤沢	優勝	BonDeBola藤沢
	Aグラウンド	1	PK 4-5	1	2位	ドリーム水戸シニアFC
3位決定戦		大泉FCクワレンタ	V S	セレソン所沢シニア	3位	セレソン所沢シニア
	Bグラウンド	0	PK 3-4	0	4位	大泉FCクワレンタ
5位決定戦		山梨マスターズ	V S	Tドリームス	5位	山梨マスターズ
	Aグラウンド	0		0	5位	Tドリームス
7位決定戦		1981	V S	矢板クラブ	7位	1981
	Bグラウンド	2		2	7位	矢板クラブ

## 第9回関東シニアサッカー選手権Over50大会結果

A組		東京都	神奈川県	千葉県	栃木県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
①東京都	toyopetclub-senior		O 6-0	O 1-0	O 2-0	1	9	3	0	0	9	0	9
②神奈川県	横須賀シニア	x 0-6		x 1-2	O 3-0	3	3	1	0	2	4	8	-4
③千葉県	FC船橋50	x 0-1	O 2-1		O 3-0	2	6	2	0	1	5	2	3
④栃木県	とちぎシニア	x 0-2	x 0-3	x 0-3		4	0	0	0	3	0	8	-8

B組		茨城県	群馬県	山梨県	埼玉県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
⑤茨城県	ドリーム水戸シニアFC		x 0-1	O 7-0	O 2-0	2	6	2	0	1	9	1	8
⑥群馬県	FC前橋50	O 1-0		△ 2-2	O 1-0	1	7	2	1	0	4	2	2
⑦山梨県	山梨シニア50	x 0-7	△ 2-2		O 1-0	3	4	1	1	1	3	9	-6
⑧埼玉県	東松山 オールパワー	x 0-2	x 0-1	x 0-1		4	0	0	0	3	0	4	-4

優勝・順位決定戦

⑧-A	決勝戦	A組1位	B組1位
		東京都 4-0	群馬県
⑧-B	3・4位決定戦	A組2位	B組2位
		千葉県 2-1	茨城県
⑦-A	5・6位決定戦	A組3位	B組3位
		神奈川県 2-1	山梨県
⑦-B	7・8位決定戦	A組4位	B組4位
		栃木県 0-2	埼玉県

優勝	準優勝
東京都 yotopetclub-senior	群馬県 FC前橋50
第3位	第4位
千葉県 FC船橋50	茨城県 ドリーム水戸シニアFC
第5位	第6位
神奈川県 横須賀シニア	山梨県 山梨シニア50
第7位	第8位
埼玉県 東松山オールドパワーズ	栃木県 とちぎシニア

順位決定 勝ち：3点 引き分け：1点 負け0点

同率の時は得失点差・総得点・直接対決の結果により順位決定。

決勝戦・3位決定戦の同点時(50分)はPK方式により決定。その他は同順位とする。

## 第16回全国シニア(60歳以上)サッカー大会関東予選会

A組		千葉県	群馬県	栃木県	東京都	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
①千葉県	古河・千葉60シニア		○ 3-2	○ 2-0	× 0-2	2	6	2	0	1	5	4	1
②群馬県	群前FC60	× 2-3		× 0-3	× 1-4	4	0	0	0	3	3	10	-7
③栃木県	栃木大昭 サッカークラブ	× 0-2	○ 3-0		× 2-4	3	3	1	0	2	5	6	-1
④東京都	東京都選抜 (Lazos2011)	○ 2-0	○ 4-1	○ 4-2		1	9	3	0	0	10	3	7

B組		茨城県	神奈川県	埼玉県	山梨県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
⑤茨城県	日立フットボール クラブ60		× 0-2	× 0-1	○ 3-0	3	3	1	0	2	3	3	0
⑥神奈川県	横須賀シニア サッカークラブ	○ 2-0		× 1-3	△ 1-1	2	4	1	1	1	4	4	0
⑦埼玉県	埼玉シニア60	○ 1-0	○ 3-1		○ 6-0	1	9	3	0	0	10	1	9
⑧山梨県	山梨50シニア サッカークラブ	× 0-3	△ 1-1	× 0-6		4	1	0	1	2	1	10	-9

優勝決定戦	A組1位	B組1位
	東京都 2-0	埼玉県
3・4位決定戦	A組2位	B組2位
	千葉県 0-2	神奈川県
5・6位決定戦	A組3位	B組3位
	栃木県 2-0	茨城県
7・8位決定戦	A組4位	B組4位
	群馬県 2-0	山梨県

優勝	準優勝
東京都選抜 (Lazos2011)	埼玉シニア60
第3位	第4位
横須賀シニア サッカークラブ	古河・千葉60シニア
第5位	第6位
栃木大昭 サッカークラブ	日立フットボール クラブ60
第7位	第8位
群馬FC60	山梨50シニア サッカークラブ

# 第6回関東シニアサッカーフェスティバル関東予選会 (Over70) 兼第3回シニアサッカー選手権大会 (Over70)

A組		埼玉県	茨城県	栃木県	棄権	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
①埼玉県	埼玉シニア70		○ 2-1	○ 3-0	***	1	6	2	0	0	5	1	4
②茨城県	茨城シニア70	× 1-2		△ 1-1	***	2	1	0	1	1	2	3	-1
③栃木県	栃木大昭 サッカークラブ	× 0-3	△ 1-1		***	3	1	0	1	1	1	4	-3
④棄権	*****	***	***	***		**	**	**	**	**	**	**	**

B組		東京都	神奈川県	千葉県	山梨県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失差
⑤東京都	東京都ロイヤル		× 0-4	△ 2-2	○ 2-0	3	1	0	1	1	2	6	-4
⑥神奈川県	茅ヶ崎70雀	○ 4-0		○ 1-0	○ 1-0	1	6	2	0	0	5	0	5
⑦千葉県	アスレチッククラブ ちば	△ 2-2	× 0-1		× 0-1	2	1	0	1	1	2	3	-1
⑧山梨県	山梨グランドシニア (オープン参加)	× 1-2	× 0-1	○ 1-0		**	**	**	**	**	**	**	**

山梨県代表はオープン参加のため試合結果は順位に反映しない

優勝決定戦	A組1位	B組1位
	埼玉県 2-0	神奈川県
3・4位決定戦	A組2位	B組2位
	茨城県 5 PK 3 0-0	千葉県
5・6位決定戦	A組3位	B組3位
	栃木県 0-3	東京都
7・8位決定戦	A組4位	B組4位
	***	***

優勝	準優勝
埼玉シニア70	茅ヶ崎70雀
第3位	第4位
茨城シニア70	アスレチッククラブちば
第5位	第6位
東京都ロイヤル	栃木大昭サッカークラブ
第7位	第8位
***	***

## JFA障害者サッカーフェスティバルin栃木

JFAグラスルーツのフェスティバル事業として、障害者サッカーフェスティバルを開催しました。中学生以上の知的障害者を対象に11月8日(日)栃木市総合運動公園陸上競技場でJFL栃木ウーヴァFCの最終戦の前座イベントとして行い、講師としては栃木県障害者サッカー選抜チームのスタッフが中心として、栃木ウーヴァFCの元選手たちの協力により行われた。参加者は20名の参加。また、11月15日(日)にフットサルコートVertfeeFieldで行われ講師として、関東リーグのヴェルフェたかはら那須のスタッフ及び選手達の協力のもと行われた。





## 障害者サッカーフェスティバル 講師として参加して

元栃木ウーヴァFC選手 林 容史

雨の中にもかかわらず20名以上の子供達が参加してくれました。

ボールとの触れ合いからゲームまで限られた時間ではありましたがとても楽しく過ごせました。中でもゴールを決めた時の喜び方、外した時の悔しがり方など気持ちをそのまま表現する姿がとても可愛く、羨ましくもありました。

子供達にサッカーの楽しさを教えること、技術を伸ばすような指導はもちろん大切ですが、一番はサッカーを嫌いにさせない、スポーツという広い選択肢からサッカーをはずせないように努力することが指導者に求められていることではないかと思いました。

これからもこのような機会には積極的に参加し、サッカーの魅力を伝えていけたらと思います。貴重な体験ありがとうございます。



## 今年度の活動を振り返って

キッズ委員会副委員長

キッズチーフインストラクター

稲垣 浩充

キッズの活動は主に下記の3つ（3本柱）で動いています。

- ①巡回指導
- ②フェスティバル
- ③キッズリーダー養成講習会

今回はそのひとつずつについて振り返ってみます。

### ①巡回指導

巡回指導は大きく

- ①県のキッズ委員会として行っているもの

②栃木SC・栃木ウーヴァ・ヴェルフェをはじめ、各クラブで行っているものに分かれます。

キッズ委員会で把握している回数は約200回ですが、来年度は250回を目指します。

また、各クラブで行っているもので確認できていないものもあるため、県としてきちんと巡回指導数を把握し目標を明確にしたいと思っています。

また、行政への働きかけも継続して行ない2つの行政で巡回指導を受けてもらえるように様々な方面からアプローチできるように動いていきます。

### ②フェスティバル

フェスティバルも

- ①県主催の【JFAフェスティバル】
  - ②県主催の【JFAグラスルーツフェスティバル】
  - ③各地区主催の【フェスティバル】
- の3つに分かれています。

今年度の【JFAフェスティバル】は鹿沼で3回、北那須で1回の計4回開催しました。

特に5月のフェスティバルでは「トレーニングとゲーム」を行う形にし、指導者研修会も兼ねて参加チームの指導者の方に午前中に集まって頂き、午後のフェスティバルでのトレーニングの内容を伝え、子供たちへの声かけのポイントなどを確認しました。

トレーニングの内容は特別なものにせず、普段チームで行なっているようなものにしながらも、「準備体操やステップワークなど」を「鬼ごっこ系で遊びながらでもできる」ことや、シュート練習も「ナイスシュート!!」で終わるのではなく、「具体的にどこが良かったのか」、また「どのように子供を褒めるのか」などを伝えました。

指導者のみなさんは照れながらもお互いにいいプレーを褒め合い、「褒められること・認めてもらえることの喜び」を味わっていたようでした。

もちろん、午後のフェスティバルはあたたかい雰囲気の中で大成功に終わりました。

グラスルーツフェスティバルは初めて中央開催ではなく佐野での開催としました。

今回もC級コーチとD級コーチのリフレッシュ研修会を兼ねていたため、たくさんのみなさんと素晴らしいフェスティバルを佐野市・足利市の子供たちに提供できました。

次回は北那須地区での開催を予定しています。たくさんの子供たちの笑顔が見られることが今から楽しみです。

また、全地区でフェスティバルが開催されていることは全国的にみてもとても素晴らしいことで、

運営をして頂いているみなさんには本当に感謝しています。

各地区の特色を活かし、様々なアイデアあふれる内容にも感嘆しています。

県としてもみなさんからのアイデアを参考にしながら、もっともっと楽しいフェスティバルを考えていきたいと思っています。

また、県から発信している内容を各地区のキッズのメンバーからお聞きになり、活かして頂けたら嬉しく思います。

### ③キッズリーダー養成講習会

2009年からキッズのチーフインストラクター制度が始まり、スタート時から6年間その責を担ってきました。

キッズリーダー講習会の受講者は2010年から2013年まで全国でおおよそ年間5000名で推移してきました。

一昨年度のチーフインストラクター研修会で「来年は7500名を目指そう」と再スタートをし、全国では7431名、栃木でも154名の方にキッズのことを伝えることができました。

そして、昨年の研修会では「目指そう10000人」を合言葉に全国で講習会の取り組みに力が入っています。

現在栃木県では138名の方に講習会に参加して頂き、そのほか高校生を含めると190名を超える方に新しくキッズのことを深く理解して頂きました。

来年度は250名の方と講習会でお会いできるよう県内をまわってアピールしていくとともに、今年度5地区で開催した講習会を全地区で開催していきたいと思います。

また、キッズリーダーの認定だけにこだわらず、「キッズのことを伝えられる講習会（研修会）」も企画していきたいと思っています。

キッズリーダー養成講習会は指導対象の年齢が上がるとなかなか目を向けてもらえなくなりますが、我々大人がいつまでも“サッカーの原点である『サッカーの楽しさ』”を忘れないためにも「楽しんで参加できる講習会」であるとともに、指導者にとっては「いつまでも必要な講習会」であると思っています。

今はプロのチームを指導できるS級コーチの養成講習会でも【キッズリーダー養成講習会】が組み入れられています。

また、県として今まで幼稚園や保育園単位での開催はありませんでした。保育士や教職を目指す学校での開催はありませんでした。来年度はその

壁を何とか打開したいと考えています。みなさんの中でお知り合いの方がいらっしゃいましたら是非ご連絡下さい。

ひとりでも多くの方とご縁を持ち、子供たちのために一緒に手を携えていければ・・・思っています。

## これから・・・

2種の事業は2種の方が、3種の事業は3種の方が、4種の事業は4種の方がされています。しかし、キッズのメンバーのほとんどは4種の所属です。自分もそうです。ですからキッズの事業のときもなかなか集まらないのが現状です。他の委員会でも同様かも知れませんが、キッズもメンバーの充実が急務な課題です。もっといろいろな方に関わって頂ければ子供たちにもっとたくさんのことが提供できるはずです。

キッズに興味のある方、キッズに向いている人をご存知の方、是非ご連絡下さい。

みなんで一緒に栃木の子供たちを育てていきましょう。

## フットサル女子日本代表 山下選手、2大会で世界へ

宇都宮市を拠点に活動する女子フットサルチーム「アマレーロ峰FC」のGK山下美幸選手（22）がこのほど、中米グアテマラで開かれた「第6回世界女子フットサルトーナメント2015」（11月24日～29日）に日本代表として出場しました。山下選手にとっては、「第1回AFC女子フットサル選手権2015」（9月21日～26日・マレーシア）に続く日本代表選出となりました。チームは惜しくも8位に終わりましたが、山下選手は日本代表として堂々のプレーを披露してくれました。日本代表として活躍した山下選手に今シーズンを振り返ってもらいました。

今シーズン、日本代表として国際大会を二つ経験し、「メンタル面で少しだけ成長できたかな」という実感を持っています。試合の中では「自分がやらなくては」という場面が何度もあり、技術面以上に精神面が鍛えられました。

9月の「AFC女子フットサル選手権」では先発する機会が多かったですが、味方が得点を取ってくれたことで落ち着いてプレーができました。ただ、



国際大会では一つの小さなミスが失点につながることもあり、国内大会以上に集中しなければいけない場面が続きました。自分のプレーを振り返ると、キーパースローの判断ミスが何度かあり満足できるものではありませんでした。

11月の「世界女子フットサルトーナメント」では2試合に出場しました。予選リーグ敗退が決まった中での難しい試合でしたが、チームメイトたちと「1勝しよう」と声を掛け合いコートに立ちました。結果、勝利は挙げられませんでした。ロースコアの試合に持ち込めたこともあり、チームの力としては「大差はない」と感じることができました。

## ユースフットサル選抜トーナメント 佐野日大高が初出場

U-18世代の「フットサルの冬の王者」を決める「ユースフットサル選抜トーナメント2016」の栃木県大会が11月23日に清原体育館で、関東大会が2月28日に埼玉県庄和体育館で行われました。

栃木県大会は、佐野日大高、真岡高、真岡北陵高の3チームが出場。関東大会切符を懸けてリーグ戦を行い、佐野日大高が初代王座に就きました。続く、関東大会で佐野日大高はBOA SPORTS CLUB U-18（埼玉）と対戦し2-2、PK 2-1で惜敗しました。

高校生世代のフットサルは、近年、夏の全日本大会、冬の選抜トーナメントが創設され、競技環境が整いつつあります。新シーズンも本県のユースフットサルがさらに盛り上がるよう大会を運営し、出場チームの熱戦を下支えしたいと思っています。高校チーム、ユースチームの出場をお待ちしています！



▲佐野日大高の選手たち



▲真岡高の選手たち



▲真岡北陵高の選手たち

## 女子フットサルの都道府県対抗戦 栃木県女子選抜が関東3位

女子フットサルの都道府県対抗戦「トリムカップ第8回全国女子選抜フットサル大会」が2月6、7日、清原体育館ほかで行われ、栃木県女子選抜は同大会で過去最高成績となる3位に入りました。

本県で3度目の開催となる同大会には8都県の代表チームが出場。昨年までは4チームごとのリーグ戦を行い、各リーグの上位1チームが全国大会へ出場していました。今年からは、より順位を明確化するために、大会をトーナメント方式に変更し熱戦を繰り広げました。

アマレーロ峰FC、宇都宮チェルトFC、モランゴメニーナ、ブラジニア、足利・両毛ローザの選手たちで編成された栃木県選抜は、1回戦で茨城県選抜を9-3と撃破、続く千葉県選抜との準決勝は2-7で破れ、ベスト4の成績を残しました。優勝は東京都選抜、準優勝は千葉県選抜で、その2チームが全国大会への切符を手に入れました。





▲栃木県女子選抜の選手、スタッフたち

## 栃木SCレディース 広瀬選手、2度目の太郎賞

栃木SCレディースのFWとして活躍した広瀬永里香選手（18）＝清陵高3年＝がこのほど、中学時代に続き2度目の太郎賞を受賞しました。中学時代も同じ栃木SCレディースの選手として同賞を受賞した広瀬選手。同一チームで2度の受賞は、広瀬選手の日々の努力を裏付けるものです。今春、県外の大学に進学、サッカーを続ける広瀬選手に同賞受賞の喜びをうかがいました。

2度目の太郎賞をいただき、とてもうれしく光栄に感じています。周囲の支えがあったからこそこの受賞で、これからも、現状に満足せずに、より上のレベルを目指して頑張っていきたいと思っています。

栃木SCレディースでプレーした高校3年間で振



▲関東女子ユース選手権でプレーする広瀬選手(右)

り返ると、中学生が多く、高校生が少ないチームで「選手たちをまとめられるか」と考えながらボールを追った毎日でした。最も思い出に残っている試合は、PK戦で負けて全国を逃した昨年10月の関東女子ユース（U-18）選手権大会です。敗者復活戦で東京のチームと対戦し、3点をリードされた苦しい展開となりましたが、そこから3点を追いつきPK戦に持ち込みました。チームの諦めない気持が現れた試合でした。

この春からは山梨学院大に進学しサッカーを続けます。1日も早くレギュラーとなり、チームに欠かせない選手となれるように、新しいステージでも頑張りたいと思います。

## 中学校サッカー部フェスティバル 大田原市で初開催

日本サッカー協会（JFA）が、中学校の女子サッカー部を支援する取り組みの一環として実施している「中学校サッカー部フェスティバル」の後期が11月21日～23日、大田原市的那須スポーツパークで開かれました。

このフェスティバルは、創部間もないチームや人数が少ないチームなど、試合をする機会が少ないチームが集まってサッカーを楽しみ、仲間を増やすことを目的にしています。前後期各1回行われ、前期（8月10日～12日）は大阪府堺市のJ-GREEN堺で実施。後期是那須スポーツパークで開催されました。

前期は本県からも中学生が2人参加しましたが、後期は残念ながら参加者はいませんでした。しかし、全国から集まった七つの中学生チームが、宿泊をともにしながら、基礎トレーニングやゲームで3日間、サッカーを楽しみました。現在、栃木県内には中学校部活動チームは1チームしかありませんが、プレー環境の整備という意味では、その輪が広がっていくことを願っています。



▲サッカーを楽しむ参加者たち

# Referee College 1年間を振り返って

Referee college 11期生 手塚優

お世話になります。栃木県サッカー協会の手塚優です。審判活動を大学1年時に始めて今年で4年目になります。これまで審判活動を充実した日々を送れている事は栃木県の方々のおかげだと感じています。またこのような栃木県におけるサッカー広報誌に私のような若輩者が書かせて頂ける事に非常に感謝しています。

この度、栃木県から初めて鈴木委員長を初め各審判指導者の方々のおかげでレフェリーカレッジに入学することができました。また栃木県で得た知識をレフェリーカレッジにおいて、通用する部分が多々感じ取れる1年でもあったので、引き続き栃木で得た知識を生かして今年度2年目も無事に修了できるようにしていきたいです。

レフェリーカレッジを1年間終えてみて自分自身にとって様々な課題が見つかり、それら肌で実感することができました。審判活動だけではなく、様々なカリキュラムが組まれており全ての事が審判活動を行うにあたって、必要なことだと感じ取ることができました。講義内容としては、競技規則の知識と適用の習得、フィットネスの向上、知覚面のトレーニング、メンタルトレーニング、運動医学・栄養学・生理学・社会学など科学的知識の習得と実践、技術指導者による戦術・システム・プレイヤーの技術などの指導、ゲームを活用した実技指導、税務の知識、レフェリーマインド養成、英会話の能力の習得とTOEICのテスト（年3回）を行っている。基本的には定期講習（2週間に1度）が東京の御茶ノ水にあるJFAハウスにおいて6名で座学の講義を受講しております。その他に集中講習と言って、各地域に行き福岡、青森、中国、大阪、神戸、三重、沖縄に行き各地域の方々と実際に一緒にトレーニングを行ったり様々なフェスティバルに参加するなど日本全国で活動しています。青森ではサニックス杯U-18国際ユース大会に参加し、高校年代においてのトップレベルの試合を肌で感じる事ができました。神戸では全国高校総体において一回戦の主審を務めることができた。非常に気温が暑い中で、コンディショニングを整えることが大変ではあったが無事に試合を終えることができた。お互いが負けたら終わりというノックアウト方式の緊張感のある中で、試合を行えたことは良い経験になった。中国においてはAFC Project Futureの選考も兼ね

た試合研修(AFC U-14 REGIONAL FESTIVAL OF FOOTBALL 2015)に2週間参加させていただくことができた。様々な国から集まった審判員の中で、言語を統一するために日常会話は勿論英語で行われたが自分自身の語彙能力の低さに衝撃を受けた。今後世界で活躍する審判員になるためには、レフェリングの技量だけではなく英語の知識を豊富にすることが大切なのだと改めて感じた。また様々な環境の中でもこれまで無事に審判活動を行えているのも、丈夫な体に産んでくれた自分の両親に感謝したい。特に栄養面に関して支えてくれた母にも感謝したい。いつか自分の父のようにJの舞台、国際の舞台で活躍するためにも1日1日を大事に過ごしていきたい。



中国で行われたAFCの研修会にて

## 宇都宮社会人審判委員会の活動について ～宿泊研修～

宇都宮社会人審判委員会委員長 手塚 信行

私の属する審判活動の場であります宇都宮社会人審判委員会は、宇都宮サッカー協会の社会人連盟に属し、現在、老若男女（20歳代～60歳代、女性1名含）20名が所属しております。

宇都宮社会人審判委員会が審判派遣する主な大会という、

「宇都宮市民スポーツ大会」宇都宮市各地区のチームが参加し10月開催、

「宇都宮カップ（17回開催）」宇都宮サッカー協会所属3部チームとUリーグ所属チームが参加し12月～3月開催、

「下野杯争奪宇都宮社会人選手権大会（48回開催）」1部リーグ及び2部リーグ所属チームが参加し1月～3月開催、があります。

しかし、今年度の宇都宮カップは、昨年9月台風18号の大雨により、石井緑地No.3～No.6が使用出来ず不開催となりました。



研修会等につきましては、年間にVTR研修4回や観戦研修2回などを実施しており、VTR研修を南大門（会議室）で開催する時には、VTR研修の後に、反省会兼懇親会となります。試合後の反省会は、その試合で起きたルールの適用、判定、審判技術など、記憶が鮮明にある内に行う事に意義があります。一方、お酒を酌み交わしながらの反省会兼懇親会は、審判技術等で悩んでいる事はもちろん、日常生活、けがやトレーニング、職場に関わる事、家庭的なことなど、何でも話し合え、アドバイス等を聞ける絶好の機会となっています。

審判員の強化・育成を考えた時に、先輩審判員から助言、叱咤激励が若手審判員の身になる筈です。審判技術の習得を目指す審判員との間に信頼関係が強い程成果は上がります。数年前にRAJ永嶋会長が「Mentor制」についてホイッスル（RAJ発行）に記載されていましたが、正に地で行っていると思っております。

もう一つ大事な規約上（何と規約があります）の目的として、所属会員の親睦を図るため昇格、成人、就職等のお祝いをしています。これも会員同士を繋げている一つとして行っております。

さて今回は、この紙面をお借りしまして、昨年実施した年間行事の一つである宿泊研修をご紹介します。

毎年11月の連休時に実施しています。今年度は平成27年11月22日～23日に開催しました。鹿沼自然の森にて13名でフットサルを2時間みっちり行った後に、宿泊場所（ニューサンピア）に移動し、会議や3試合分のVTR研修を行ない、美味しい夕飯を頂いた後に、畳の宿泊部屋（大部屋）にて恒例の懇親会という日程でした。

フットサルについては、ご家族（奥様やお子様）も参加され、2時間でも足りない（体力を残したまま）くらい夢中にボールを追いかけて良い汗をかきました。試合では、普段審判をやっている時には見られない一面が垣間見られてとても面白いです。フットサルの試合では、人間性や性格が分かるので相互の意思疎通に繋がり、以心伝心、目を見れば分かる関係となって審判活動にも役立ちます。

この懇親会の中で、岩崎氏1級及び藤田氏2級の昇格祝いを宿泊部屋にて、盛大に開催出来ました。両氏へは記念品を差し上げ、岩崎氏には、私の手製の記念ボード進呈（無理やり進呈）し、場を盛り上げ（？）しました。

念願の1級昇格者が出たこともあり、時間を忘れ審判談義に夜更かしをした方がほとんどでした。中には、翌日声がかれていた方もいました。それでも翌朝7時のモーニングトレーニング前に朝風呂に入り、朝食を食べての解散となりました。

翌朝7時のモーニングトレーニング前に朝風呂に入り、朝食を食べての解散となりました。

話は変わりますが、年次総会時には事業報告・計画及び決算報告・予算の決議や、栃木銀行の預金残高（宇都宮社会人審判委員会名義）の報告をしているという、私が言うのも何ですが、しっかりした組織です。これもOBの方々が長年培って来た賜物であります。また、当委員会から飛び立たれて、県内各地域でご活躍されている仲間が多数おられます。

最後に、サッカーが好きで、審判活動に協力出来る方は「来る者は拒まず、去る者は追わず」の方針で仲間を募集しておりますので、気軽に声をお掛けください。

以上



『審判委員会のフットサルチーム。  
チーム名は「グリーンカード」』



岩崎さんの1級祝賀会。パネルは手塚委員長のお手製

## サッカー審判インストラクター

S3級インストラクター 大平秀明

平成27年11月8日（日）、3級審判インストラクター更新講習会及び新規取得講習会が、（公社）栃木県サッカー協会事務所に於て行われました。JFAより1級インストラクターの関根弘之氏を講師にお迎えし、新規に取得される3名の方々を含めた26名の参加となりました。私は、2012年に3級審判インストラクターを取得させていただきましたが、



関根氏はその際にも栃木県においでになり、ご講話とご指導をいただきました。

当日は10時の開講式から始まり午前中に講義、昼食を挟んだ後に、午後はグループワークを交えた講義形式で研修が進みました。講義では、プレゼンテーションソフトを活用しながら競技規則の解説をいただいたことは勿論ですが、ホイッスルやタブレットPC、審判員の指導に必要な手作りの道具までご持参され、分かりやすくお話を伺うことができました。

### 1) 「良いゲーム」とは

良い選手が、レベルアップしながら技術を向上させ、良い審判員が演出（コントロール）することにより、サポーターに感動を与える。そしてインストラクターは、一貫性を持って審判員を支援し指導することで、サッカーの更なる魅力を引き出していく。

### 2) インストラクターの資質と任務

まず、第一印象を大切に。毅然とした態度や立ち振る舞い、身だしなみなど、指導者として高い意識をもつこと。また、「意欲・信念・誠実さ・公平性・冷静さ・感受性・聡明さ・健康で明朗」など、内面性が信頼感を導くものになる。ゲームを様々な方法で分析し、評価しアドバイスすること。最新の情報と知識を備えて、研究心・探究心を忘れず、審判員に伝えるべき事をしっかりと伝え、情熱をもって接することがインストラクターの任務である。更には、ゲームのコントロールや判定に不安を抱き、失敗したと落ち込んでいる審判員をどのように復活させるのか。それがサポートである。

### 3) 指導について

指導の原則としてあげられるのが「Must know、Should know、Could know」を伝えて理解させること。そのとき必要な手法として「when、where、whom、what、how」を用いて、「short、simple、clear」を意識すること。そこには真剣なまなざしと熱き思いを注ぎながらも、「cool」さを欠いてはならない。

ゲームを分析し伝える際に、注意すべきこととして次のことがあげられる。審判員とアセッサーは視点が異なる（選手やボールとの距離、見る角度が違う）。スローインやフリーキックの位置など、基本的事項を見逃さない。競技規則の適用ミスは明確に指摘する。判定に対する疑問をクリアーにする。審判員の意欲を引き出すようなまとめを行う。重要なのは、その審判員の課題を見つけて、次のゲームでチャレンジさせることである。試合（審判員）を

観戦（観察）し、指導内容を整理し反省会を行うまでに、何を改善して、どこを伸ばすのかを明確にしておかなければならない。競技規則の熟知と正確な適用が土台となり、正しいプレーと不正を見極め、自信のある判定へとつながっていくことが、より素晴らしいサッカーをつくりあげる。

### 4) アセスメントレポートの記入

あるアセッサーによって書かれた実際のレポートを見ながら、レポート作成に関する留意事項を学んだ。評価点については、点数とコメントの整合性がとられていなければならない。A「判定の的確さ、一貫性」、B「ゲームコントロール」、C「体力、動き、ポジショニング」、D「副審との協力」それぞれの項目についての的確に記入されていること。

### 5) グループワークとディスカッション

「インストラクターとしてトラブルを予防するには」と題して、サッカーに関わるトラブルについて意見を出し合い、理解を深めることができた。トラブルを大きく4つ、①（他→人）、②（人）、③（他）、④（人→人）に分類し「どこにあてはまるのか？原因は何か？対処するには？」など、実際の場面を想定しながら話し合いは進んだ。自分と異なる意見や考え方に耳を傾け、視点や観点がかわること、見えないものが見えてくることに気づくことができた。

### 6) インストラクターに求められるもの

- ・資質の向上
- ・カリキュラムや場の設定
- ・指導方法の選択
- ・指導のねらいや観点
- ・目標の設定、評価・検証
- ・個に応じた指導
- ・プレゼンテーション技術
- ・コミュニケーション技術



午後4時をまわり、あっという間の時間でした。講習会を終えて会場を後にしながら、今日は自分を振り返る良い機会を与えていただいたのだと実感しました。サッカーの審判員として、審判指導者として、サッカーに関わる者として、スタジアムや競技場に一歩足を踏み入れる時の心構えのようなものを…。

そして何より、審判活動やサッカーを通じて出会うことができた先輩方や多くの仲間たちに、未熟な自分は支えられていることを忘れず、感謝の心を持ち続けることが大切であることを学んだ一日となりました。

## 感謝 ～2級昇格を経て～

新2級審判員 阿久津 駿

はじめに、2級昇格試験に推薦してくださった鈴木委員長をはじめとする審判委員会の皆様、これまでに指導してくださったインストラクターの方々、中学・高校のサッカー部顧問の先生やスタッフの皆様と選手の皆さん、審判仲間の方々など、今までにお世話になった全ての方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

今回の試験で、栃木からは私を含め3名が合格いたしました。参加者の中で最年少での参加になりました。試験間の講話では、「審判をやろうとしたきっかけは？」という問いが与えられました。私は以前から多くの方に、「なぜこんな若い時から審判をやっているの？」と聞かれたことがありました。そこで、この機会をいただいたので、私のことを知っていただければと思います。

審判というものに興味を持ち始めたのは、2010年W杯での西村さんの活躍を見てからでした。サッカーにこのようなかわり方もあるのだなと思い、いつしか審判員になってみたいと思うようになりました。それから4級審判員の資格を取ったのは、2012年の中学2年生の夏でした。最初は右も左もわからない状況でしたが、練習試合の試合数をこなしていく中で、少しずつ自信がついていきました。経験を積ませていただいたことや資格取得を打診してくださった、中学校の顧問の先生やスタッフの皆さんに感謝申し上げます。

高校入学後は3級を取得し、夏には高校1年生にもかわらず『第38回全日本少年サッカー大会決勝大会』に参加させていただくことができました。この大会では、同年代のユース審判員が全国から派遣され、良い刺激を受けることができました。その後も県審判トレセンや各種研修会等に参加させていただき、多くの経験を積むことができました。高校

の顧問の先生方やスタッフの皆さんのご理解及びご協力と、審判委員会の皆様をはじめとする多くの方に感謝申し上げます。

2級昇格を経て、改めて多くの方に支えられて審判活動ができているのだなと感じました。多くの方に支えていただいているからこそ、感謝の気持ちを忘れずに、審判技術の向上を怠ってはいけないと思っています。2級昇格はまだ通過点であり、もっともっとレベルアップをして、上級審判員を目指していきたいと思います。



## 審判員としてサッカーに関わって

関東強化2級審判員 長峯 滉希

2014シーズンでヴェルフェたかはら那須（以下：ヴェルフェ）を退団、引退し、審判の道へ進んだ私は、2015関東審判トレーニングセンター（以下：関東トレセン）に参加させていただいた。関東トレセンは、関東で選ばれた6人の審判員が月1回合計8回の1泊2日の研修会を行う。内容は、競技規則の理解（プレゼンテーション、スタンプ、プラクティカルトレーニング）、レフェリングの指導（ゲームによるレフェリング分析、ビデオクリップ等）、フィジカル強化（フィットネストレーニング、トレーニング理論）、技術との協調（技術コーチ、スタッフ、選手とのディスカッション等）、パーソナリティの醸成（サッカー観、審判観など審判員として必要な資質の向上等）、12分間走、yo-



yo testであった。

私の審判員としてのキャリアは、大学のサッカー部で4級審判員の資格を取得することが義務であったことから始まった。2011年の東日本大震災後にボランティアで中学、高校の試合で審判を月に1回する程度であったが4級だと活動できる試合が少ないことから2012年に3級の昇級試験に受験、合格した。2012年大学3年時に副主将として総理大臣杯にも出場し、東北大学選抜にも選出された。大学4年時には主将として80人以上の部員と全国大会出場を目指しながら、審判活動も積極的に行い、2級審判員の昇級試験にも受験し、合格した。残念ながら全国大会出場の目標は達成できなかったが、選手と審判の二足の草鞋で歩んだ大学4年間はサッカーについて多くを学ぶことができた。

卒業後、講師として栃木県の特別支援学校に赴任した私は、ヴェルフェに入団した。ヴェルフェでプレーしながらではあったが、県のU-18リーグなどで審判活動もさせていただいた。社会人1年目で仕事とサッカーの両立の難しさ、パフォーマンスの低下、選手として上のカテゴリー（Jリーグ、JFL）にステップアップできる可能性などの様々なことに悩んでいた私であったが、月に1回行われている栃木県審判トレセンに参加した帰りに宇都宮白楊高校の恩師でもある鈴木委員長から「審判員としてJリーグを目指すこともできる」という冗談交じりの一言から現役引退を考えることになった。今までサッカーが好きな自分が選手を引退することなんて想像もつかなかった。そして審判員の大変さは自分が一番理解していたことで、なかなか決断できない日々を過ごしていた。そんなときに鈴木委員長から「来年の関東トレセンに参加しないか」という話をいただいた。関東トレセンに参加し、1年間研修を積むことで1級審判員になれる可能性が増すと教えていただいた私は、こんなチャンスはないと現役引退の決断をした。

毎月の関東トレセンに参加するためには、競技規則テスト、競技規則に関するプレゼンテーションの作成、試合やフィジカルテストに向けてのトレーニングをしなければいけない。プレゼンテーションは当日にインストラクターから指名された審判員2名のみが行うので、必ずしも準備したものを披露する機会があるわけではなかったが、いつ指名されてもよい準備をした。試合は合計2試合を事前に発表された3人セットで分かれて主審1名と副審2名を務める。主なスケジュールは土曜日に試合、プレゼンテーション、競技規則テストが行われ、日曜日にブラクティカルトレーニング、前日の試合分析、フィジカルテストが行われた。

関東トレセンに参加する私以外の審判員は、関東

で実績のあるメンバーであった。私は、年齢も最年少であれば、実力も一番下であることは始まる前から理解していた。4月の第1回関東トレセンでは、インストラクターからの競技規則について質問されたときに私だけ回答できなかったことがあったが想定内であった。これから理解していけばよい、そのために参加させていただいていると思っていた。しかし、想定外のことがあった。それは、フィジカルテストの12分間走で3,350mを記録したが、3,400mを記録した審判員がいたため6人中2位であったことだ。正直、フィジカルでは1番であると思っていた。なぜ想定外であったのかは、選手時代に見ていた審判員の印象から走れる審判員がいるはずないと決め付けていたからである。しかし、現在の審判は走れて当たり前前の世界で走れなければ上級審判員になれない。関東トレセンに参加した審判員の仲間は、中学校の教員や銀行員、大学の研究員、臨床心理士など様々な職種で仕事をしながら審判活動をするものの難しさを分かち合いながらも1年間競争をすることができて6人全員が成長することができた。私も競技規則テストでは100点、12分間走では、3,550mを記録し、レフェリングでも「一生懸命」「本気度」が一番大切だということを学ぶことができた。

審判員は、サッカーの理解、判定基準、事象を見るためのポジショニング、競技者が落ち着いてプレーできるようなマネジメント、ここには書ききれないほど多くのスキルと経験が必要とされる。サッカーに審判は欠かせない大切な役割であり、時として勝敗を左右する判定をしなければいけない存在でもある。サッカーに関わるすべての人がサッカーを楽しむことができるように私は今後も努力をし、審判員としてステップアップしていきたい。そして、審判員として栃木県、関東そして日本のサッカーに貢献していきたい。



関東トレセン風景



左が記者、  
右が原崇氏



## サッカー審判1級認定審査を終えて

サッカー1級審判員 岩崎 創一



昨年、サッカー審判の1級認定審査を受けさせていただきました。大変長く、苦しい1年間となりましたが、たくさんの方々のおかげもあって、無事に合格できましたことをここに報告させていただきます。また、この場を借りて、指導していただいた方々を初め、応援して

いただいた方々、協会・チームや選手等サッカーに関わる全ての方々に感謝申し上げます。恐縮にも、「SOCCER TOCHIGI」への執筆の機会をいただきましたので、昨シーズンの取り組みと来シーズンに向けての抱負を書かせていただきます。

まず1級認定審査ですが、2月に競技規則テストと体力テストを行い、それを通過すると実際に試合をレフェリングしての審査になります。関東社会人リーグや関東大学リーグで合計5試合を担当し、その結果で合格が決まります。5・6月の一次審査2試合を経て、9月の二次審査1試合、10月の三次審査2試合と、ほぼ1年間かけての試験であり、身体的にも精神的にもとてもタフな日々を過ごしました。自分一人では潰れていたかもしれませんが、審判仲間や周りの人の支えがあって、なんとか乗り越えることができたと感じています。

この1年間を通して、非常に多くのことを学び、成長することができました。その中でも、「目標の立て方」「分析・改善の仕方」について学べたことが大きな収穫でした。1つ自分としてのゴールを見据え、そのためには何が必要かといういくつかの目標を設定し、それぞれの目標を達成するためには具体的にどのような行動を取れば良いかを考える。このようにゴールに向かって必要なことを論理的かつ明確にすることが、実際に挑戦し、それを振り返って継続したり修正したりすることに役立ちます。現状を分析して課題を整理した後に、「目標の設定→実行→振り返り→継続・修正」を繰り返す。そうすることで、ゴールに向かって確実に一歩ずつ近づいていけることを実感しました。

ここで、普段どんなことを考えて審判をしているかについて少しお話できればと思います。我々審判員も選手と同じように、試合に向けてトレーニングをしたり勉強をしたりして技術を磨いています。また、身体的にも精神的にも良い状態で試合に臨めるように、体のケアをしたり食事の管理をしたりもします。チームや選手はそれぞれの試合にかけて準備

をしていますので、審判もその想いに負けない様に、全力で試合に臨んでいます。試合に入ってしまったら、「一生懸命走って良い場所で見よう」、「正しい判定をしよう」等といったことを具体的には考えていますが、それは何のためか考えると、「チームや選手に最大限のプレーを発揮してもらいたい」、「良いサッカーを演出したい」、「サッカーをより魅力あるものにしたい」等といった想いからきています。サッカーをする人や見る人に、そして何より自分自身もサッカーを楽しむことを忘れずに、これからも活動を続けていきたいです。

個人的には、今年はJFL担当からのスタートになりますので、更なる研鑽を積んでレベルアップを目指し、J3担当、またその先の試合を担当できることを当面の目標にして頑張ります。これからも、日本のサッカー、栃木県のサッカーのために力を尽くしていければと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

## 日本サッカー協会1級審判員を振り返って

県審判委員会 副委員長 手塚 洋

19年間日本サッカー協会1級審判員を務めさせていただき、栃木県サッカー協会関係者の皆様に感謝申し上げます。ここまでの審判活動ができたのは皆様方の支えがあったことと強く感じています。特に、ここまでご指導を受けてきた歴代の大栗克元 審判委員長、村上修 審判委員長、十河正博 審判委員長、鈴木武明 審判委員長には、語り尽くせないほどの感謝です。

ここまでの審判活動を振り返りますと、栃木県中学校体育連盟サッカー専門部（審判）での活動を基盤に栃木県内すべての連盟にお世話になり平成5年の全国高校総体栃木県開催を契機に日本サッカー協会2級審判員を取得させていただきました。その後、関東サッカー協会の審判活動を中心に経験を積み重ね、1996年に1年間を通して日本サッカー協会1級審判員を受験させていただきました。1997年から日本サッカー協会1級審判員として活動を開始して2002年から2010年まで国際審判員として活動させていただきました。19年間の中では、2006 FIFAワールドカップアジア地区最終予選、2010 FIFAワールドカップアジア地区予選、2004年（アテネ）、2008年（北京）オリンピックアジア地区最終予選から、元日天皇杯決勝等、様々な試合で貴重な経験をさせていただきました。印象に残っているのは、トルクメニスタンでの2010 FIFAワールドカップ（南アフリカ大会）アジア地区予選、トルクメニスタン対韓国戦での思い出。試合は

本県の高山国際主審のゲームコントロールで無事終了。ところが、帰国途中で4人の審判員が全員、体調を悲慘に崩した思い出です。悲慘な体調の状況は今でも記憶が鮮明に残っており、帰国時のフライトは我慢大会でした。また、インドのコルカタにAFCカップに出向いた試合では、スーツケースがデリーの空港に届かず、手持ちの荷物のみで1週間過ごした思い出があります。帰宅時に、ひげ面で人相が変わり果てた私を見て当時幼かった娘が泣きだした事も今となっては懐かしい思い出です。様々な環境の中でも19年間の割当の試合をすべてこなせたのは、丈夫な体に産んでくれた両親と、栄養面・精神面で支えてくれた妻と息子、娘に感謝したいと思います。

2016年からは、日本サッカー協会1級審判インストラクターとして活動させていただきます。今年は2016年リオデジャネイロオリンピック、そして2020年東京オリンピック、2022年栃木県開催の国体等大きなスポーツイベントが今後も数多く待ち構えています。

今までの経験を活かして、栃木県内はもとより関東、日本全体の審判活動関係に少しでも貢献できるよう微力ですが努力していきたいと思いますので今後よろしくお願いいたします。



## ユースダイレクターの役割と活動について

47FAユースダイレクター 臼井 紀仁

47FAユースダイレクターとは、JFAと連携しながら、各FA内の育成年代の責任者として、2, 3, 4種の活動全般を掌握するとともに、キッズ年代からユース年代、クラブユース連盟、中体連、高体連等の連盟の垣根を取り払った活動を推進し、以下のような役割を担う立場です。

- (1) 各FAの独自性を考慮したユース育成のヴィジョンの作成
- (2) 2, 3, 4種の種別を超えた長期一貫指導体制の確立
- (3) 育成年代全体における年間リーグの確立
- (4) トレセンと単独チームのスケジュールの調整

及びプライオリティーの決断

- (5) キッズ活動との連携
- (6) 女子委員会との連携
- (7) 指導者養成事業との連携

こうした役割を果たすため、各種別・委員会と協力しながら、主に以下のような活動をしています。

### ①47FAユースダイレクター研修への参加(年2回)

JFAが開催する2泊3日の研修会で、育成年代の各代表活動報告・各種大会TSG、トレセン活動やリーグ環境についてのディスカッション、指導実践などの内容で実施されています。JFAの育成の方向性を共有するための重要な研修会です。

最近の研修で主要なテーマとなっているもののひとつは、リーグ環境の整備についてです。本県ではU18・U15でほぼ整備されてきており、現在は、U12年代の全国少年サッカー大会の冬季移行と合わせたリーグ環境整備を、県の少年連盟が中心となり、取り組んでいるところです。年間カレンダー全体の修正を伴う大きな変革であり、現場の方々にとっては非常に負担となっていますが、子どもたちのために、試行錯誤しながら整備を進めてもらっています。

また、トレセン活動についても検証が続いており、県・地区のトレセン活動を整備するための制度が、今後導入される方向のようです。

### ②ユース委員会の開催(年3回)

県内2・3・4種及び技術・キッズ・審判・女子委員会などの代表者と、地区ユースダイレクターが参加する、ユース育成のための重要な委員会となっています。地区ユースダイレクターは、上記のような47FAユースダイレクターの役割を、各地区で効果的に展開していくために活動しています。このユース委員会は、上記のユースダイレクター研修の内容を伝達するとともに、各種別・委員会・各地区の現状や課題、取り組みなどを共有する場となっています。

### ③トレセンコーチ研修会(年1回)・地区トレ研修会(年2回)の開催

トレセンコーチ研修会はJFAのインストラクターによる講義と実技の研修会で、トレセンコーチの資質向上と、JAPAN'S WAYの方向性共有を目的とした重要な研修会です。地区トレ研修会では、各地区のトレセンコーチに県協会から情報を発信し、県と地区の育成ベクトルを合わせています。また、カテゴリー別・地区別の分科会を行い、地区のトレセン活動の活性化を図っています。

決して十分な活動とは言えませんが、育成に関わる多くの関係者がこうした活動をしていることを紹介させていただき、栃木県のユース育成がさらに充実していくよう、今後ともご理解とご支援をお願いいたします。

奥澤 直人

揚茜クラブ

宇都宮大学サッカー部OB会

野木SSS

今市第三カルナヴァル

FCグランディール宇都宮

石崎 洋子

大内中学校サッカー部協力会

FC西那須21アストロ

円印刷株式会社

ユー福祉タクシー

泉フットボールクラブ宇都宮



人と自然が調和した街づくりを目指す

**鈴運メンテック株式会社**



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857

宇都宮市鶴田2丁目2番10号

TEL 028-648-6241(代)

FAX 028-648-8318

<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー  
**ミズノ株式会社**

■ 発行

公益社団法人 栃木県サッカー協会

■ 編集

公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会

■ 発行責任者

石崎忠利、村上富士夫

■ 印刷所

円印刷株式会社

